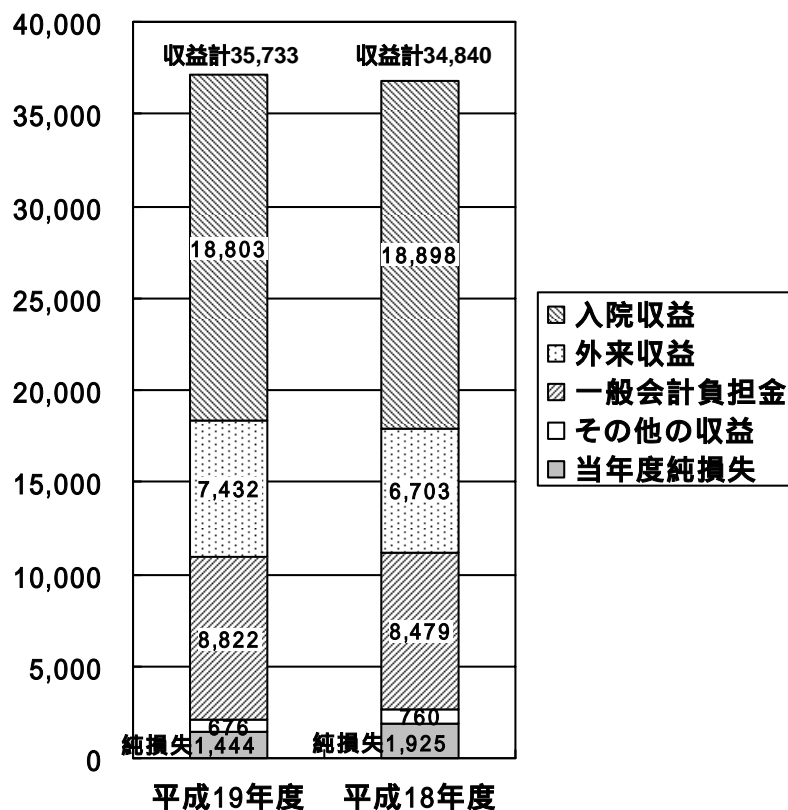
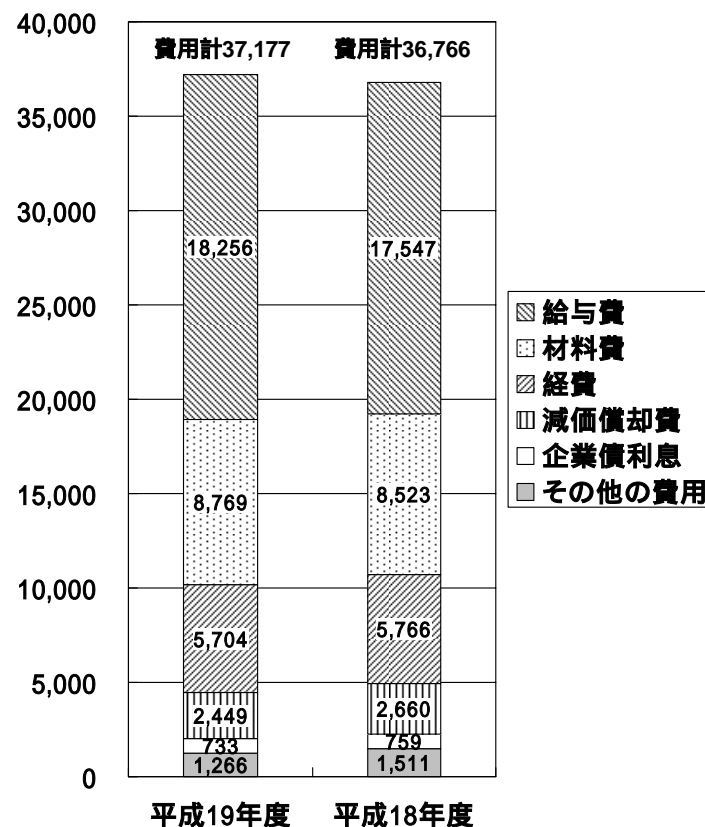


病院局の決算状況(損益)

収益と純損失の前年度比較(単位:百万円)

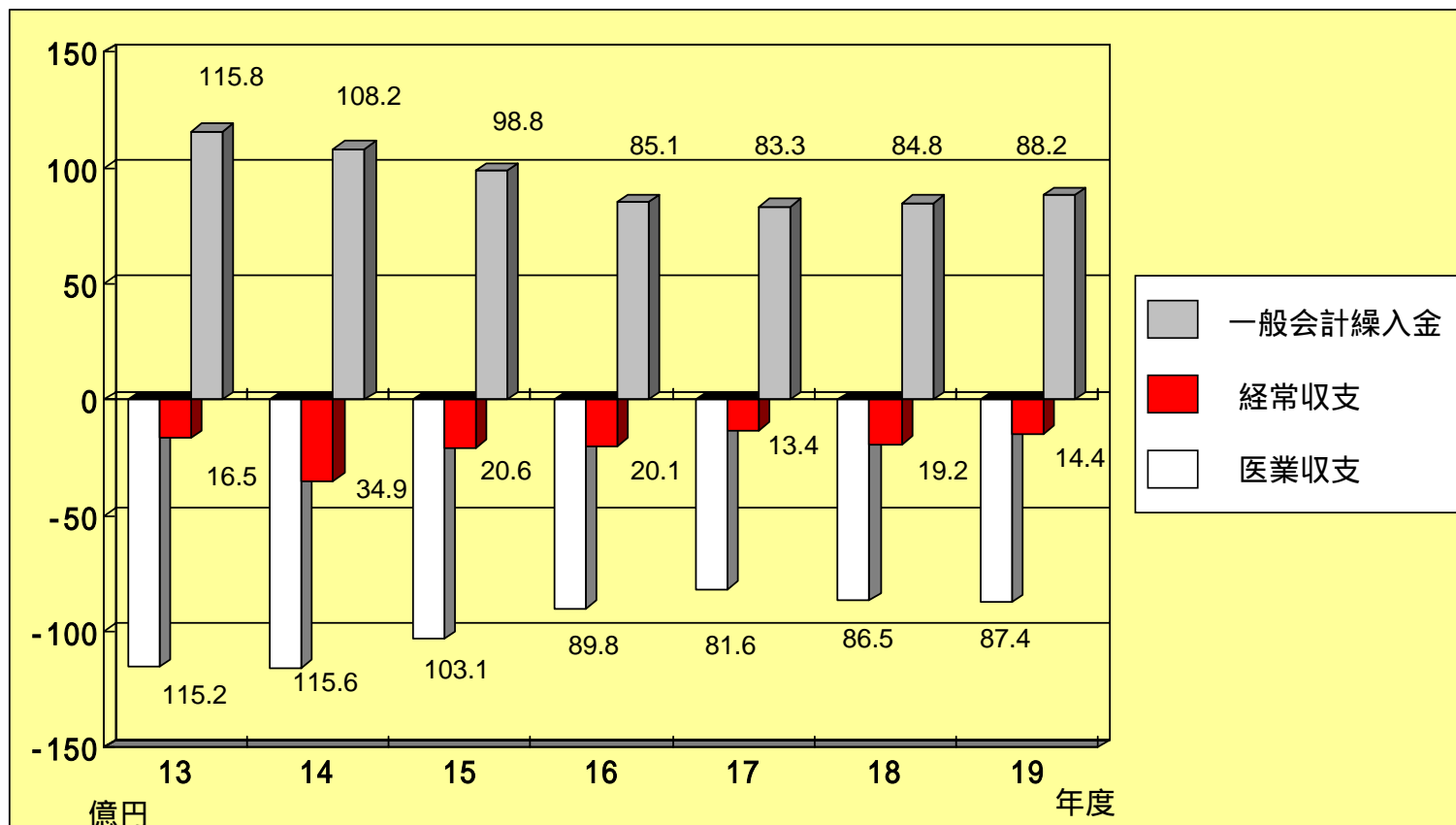


費用の前年度比較(単位:百万円)



平成19年度分は、決算見込

収支状況の推移 (病院局全体)



平成19年度分は、決算見込

各県立病院の収支状況(19年度)

単位:百万円

区分	がんセンター	救急医療センター	精神科医療センター	こども病院	循環器病センター	東金病院	佐原病院
収益	10,083	5,055	1,548	6,322	6,678	2,167	3,547
医業収益	7,922	3,241	1,039	4,477	5,298	1,673	2,973
うち入院収益	4,681	2,929	567	3,341	4,446	904	1,935
うち外来収益	3,107	289	462	1,114	762	757	940
医業外収益	2,161	1,814	509	1,845	1,380	494	574
うち一般会計繰入金	2,029	1,792	489	1,822	1,348	476	564
費用	9,747	4,802	1,317	6,250	7,353	2,579	4,310
医業費用	9,344	4,609	1,258	5,922	6,848	2,471	4,110
医業外費用	401	193	59	328	505	108	200
医業収支	1,422	1,368	218	1,445	1,549	798	1,137
医業外収支	1,758	1,621	450	1,516	875	387	374
純利益	336	253	232	72	675	411	763

平成19年度分は、決算見込

病院局の決算状況(貸借)

公営企業会計上の貸借対照表

固定資産	407億円	固定負債	0円
流動資産	65億円	流動負債	44億円
繰延資産	3億円		
資産計	475億円	負債計	44億円
		資本金	412億円
		(自己資本金)	121億円
		(借入資本金)	291億円
		剰余金	19億円
		(資本剰余金)	278億円
		(利益剰余金)	259億円
		資本計	431億円

一般の企業会計上の貸借対照表(参考)

(借入資本金を負債に置換え、剰余金と欠損金を相殺)

固定資産	407億円	固定負債	291億円
流動資産	65億円	(長期借入金)	291億円
繰延資産	3億円	流動負債	44億円
資産計	475億円	負債計	335億円
		資本金	121億円
		(自己資本金)	121億円
		剰余金	19億円
		(資本剰余金)	19億円
		資本計	140億円

19年度末の損益勘定留保資金残高(流動資産 - 流動負債)は、21億円となっている

平成19年度分は、決算見込

病院事業会計損益勘定留保資金（平成19年度決算見込）

収益的支出予算における費用のうち、現金の支出を必要としない費用、つまり、減価償却費、繰延勘定償却、固定資産除却費など実際の支出を伴わない経費の合計を「損益勘定留保資金」として組み込んで、その範囲内で実際の収支計上の処理を行う。
この「損益勘定留保資金」がマイナス（赤字）になると、事実上の赤字決算となる。

区 分		19年度見込
収益的収入	医業収益	26,624,080
	医業外収益	9,109,198
	一般会計負担金	8,821,992
	その他	226,556
	合 計	35,733,278
収益的支出	医業費用	35,362,104
	医業外費用	1,815,300
	合 計	37,177,404
収支見込額（ - ）		1,444,126

減価償却費等 （収益的支出のうち現金支出を伴わない内部留保資金）	2,588,889
-------------------------------------	-----------

19年度 留保資金発生額 （ + ）（現年分）	1,144,763
----------------------------	-----------

（単位：千円）

区 分		19年度見込
資本的収支	資本的収入	3,717,473
	うち一般会計負担金	1,357,204
	資本的支出	4,645,004
	合 計（ - ）	927,531

資本的収支 欠損見込	927,531
------------	---------

19年度留保資金額	1,144,763
-----------	-----------

19年度収支（ + ）	217,232
-------------	---------

損益勘定留保資金 （過年度分18年度末残高）	1,844,316
---------------------------	-----------

損益勘定留保資金 （19年度末見込） +	2,061,548
----------------------------	-----------

・企業債借入 2,358,289
・長期貸付金返還金 1,980
・一般会計からの繰入金 1,357,204

・建物取得費 278,271
・器械及び備品取得費 1,831,303
・企業債元金償還金等 2,535,430

19年度病院事業会計
実質的収支

病院事業会計の実質的な資金繰り。ここがマイナスになると赤字決算で不良債務（流動負債＞流動資産）の発生

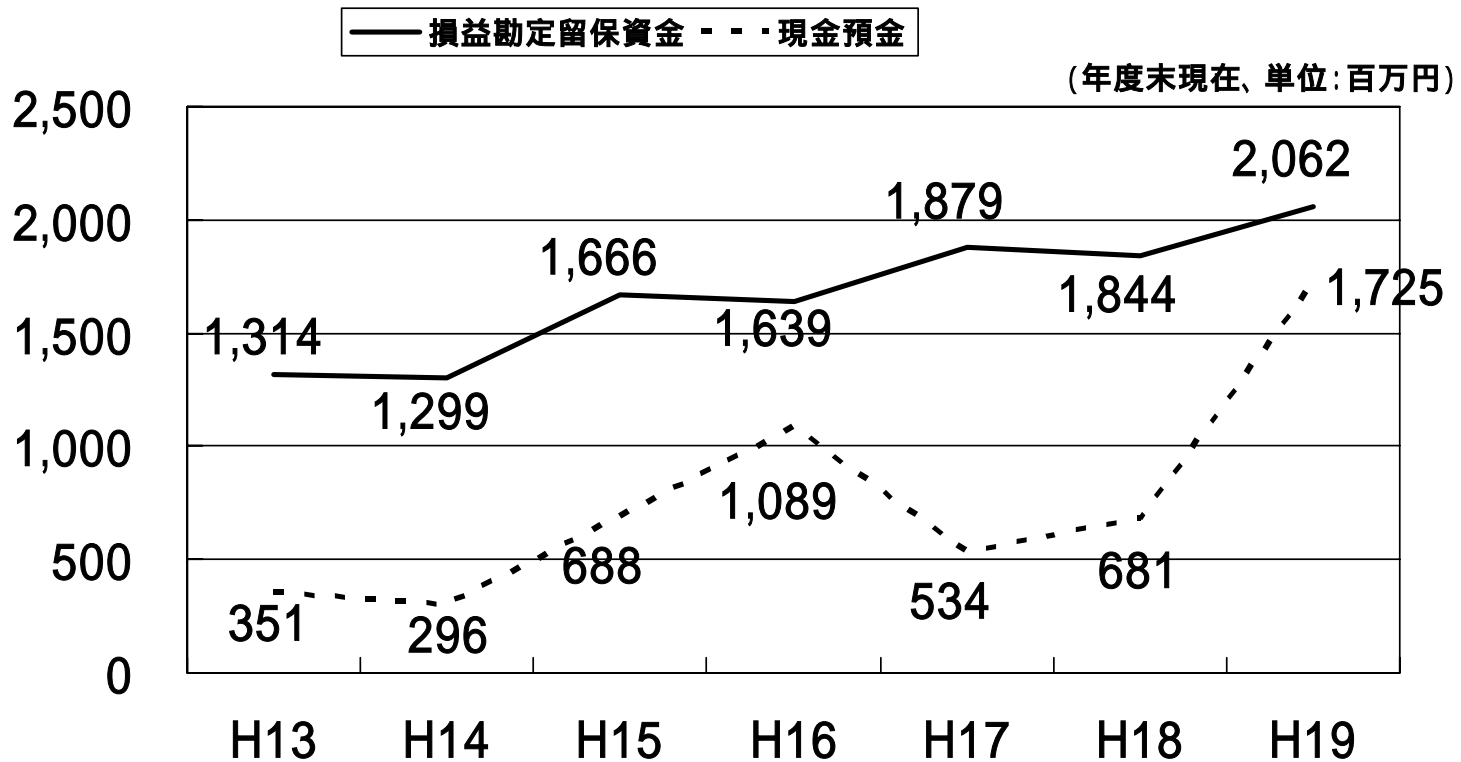
【地方債許可対象事業への移行基準】

前年度の医業収益に対する不良債務額の割合が10%以上（地方財政法第5条の4第3項の規定に該当する公営企業）

「公営企業経営健全化計画」の策定が必要

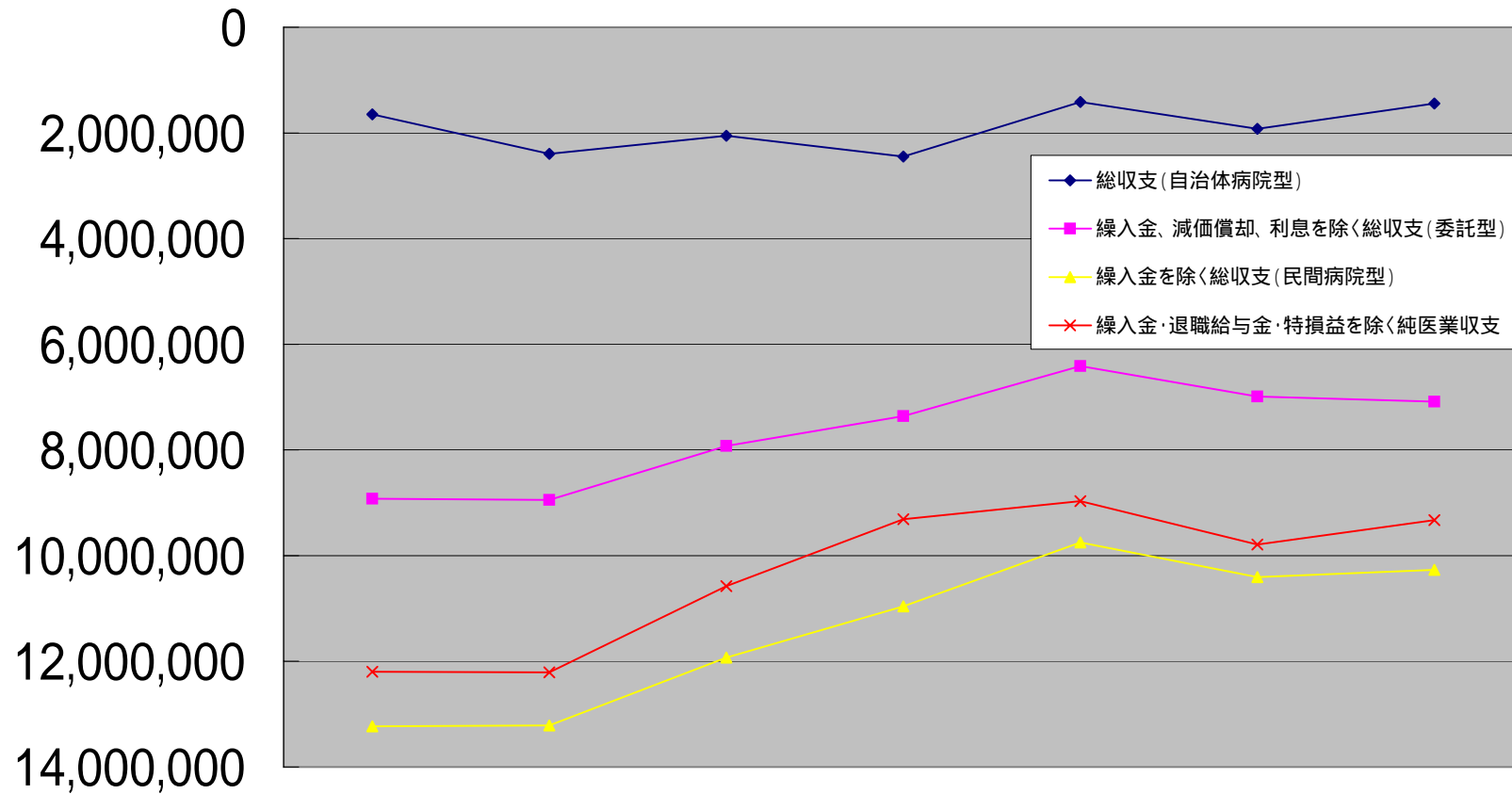
H19年度医業収益見込 26,624,080千円×10%=2,662,408千円により、損益勘定留保資金が 2,662,408千円以下の場合、地方債の発行等について協議制から許可制に移行となる。

損益勘定留保資金等の推移



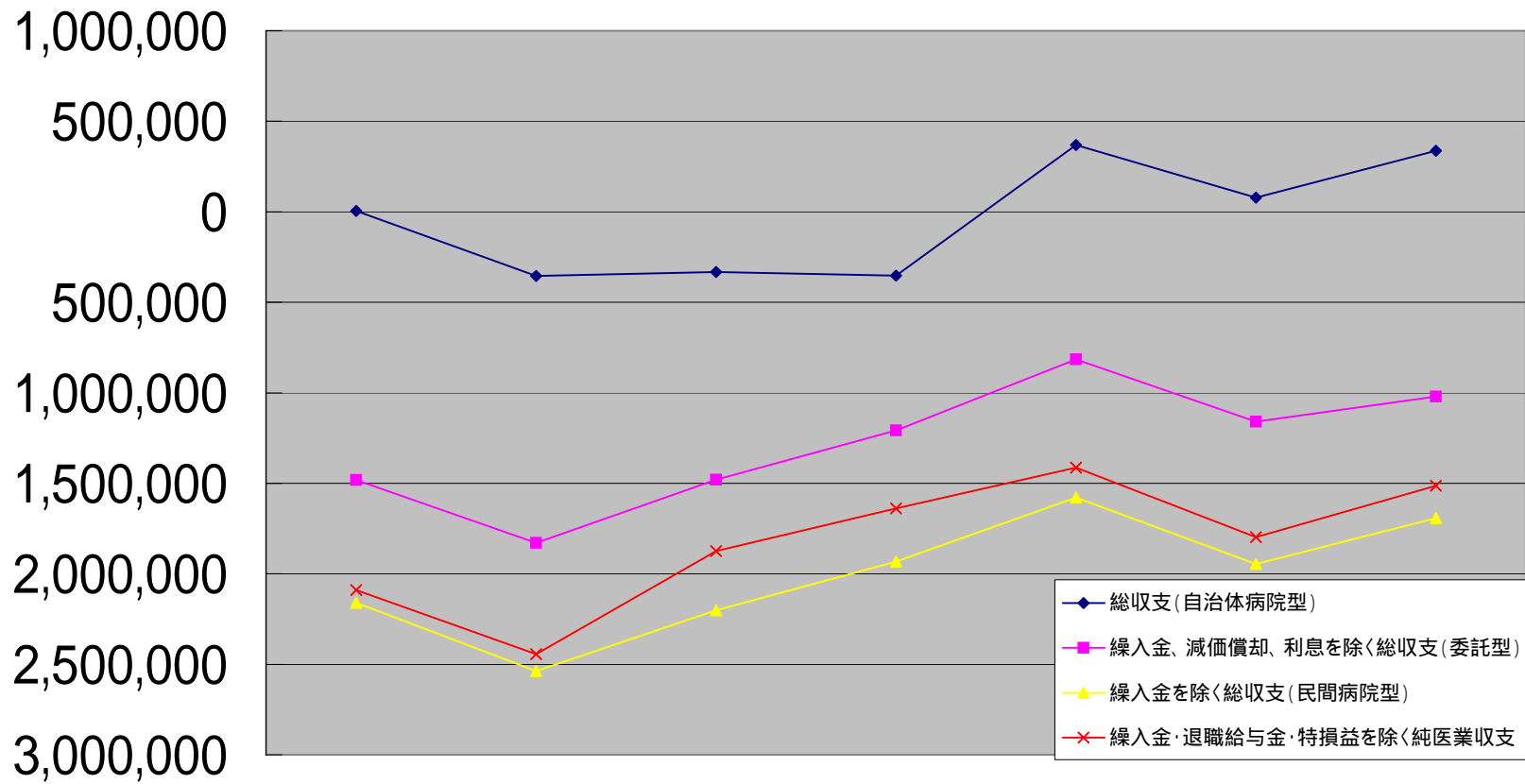
平成19年度分は、決算見込

病院局における収支の推移



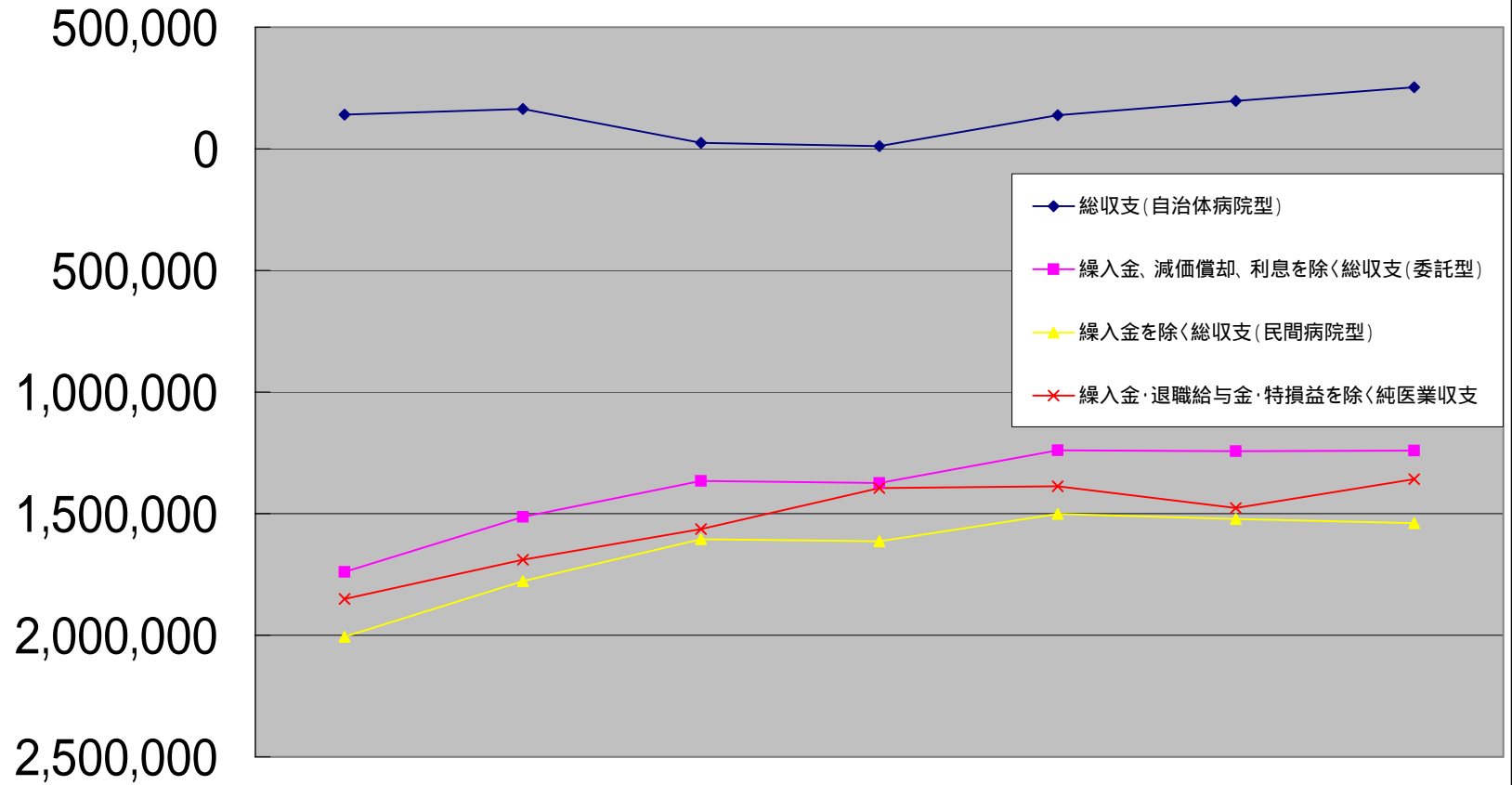
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度見込
総収支(自治体病院型)	1,649,391	2,394,371	2,054,625	2,449,561	1,416,678	1,925,344	1,444,126
繰入金、減価償却、利息を除く総収支(委託型)	8,919,793	8,945,706	7,925,751	7,358,751	6,410,210	6,985,789	7,083,480
繰入金を除く総収支(民間病院型)	13,231,498	13,215,119	11,931,345	10,961,394	9,749,939	10,404,820	10,266,118
繰入金・退職給与金・特損益を除く純医業収支	12,197,330	12,210,166	10,577,712	9,311,225	8,968,239	9,788,915	9,329,673

がんセンターにおける収支の推移



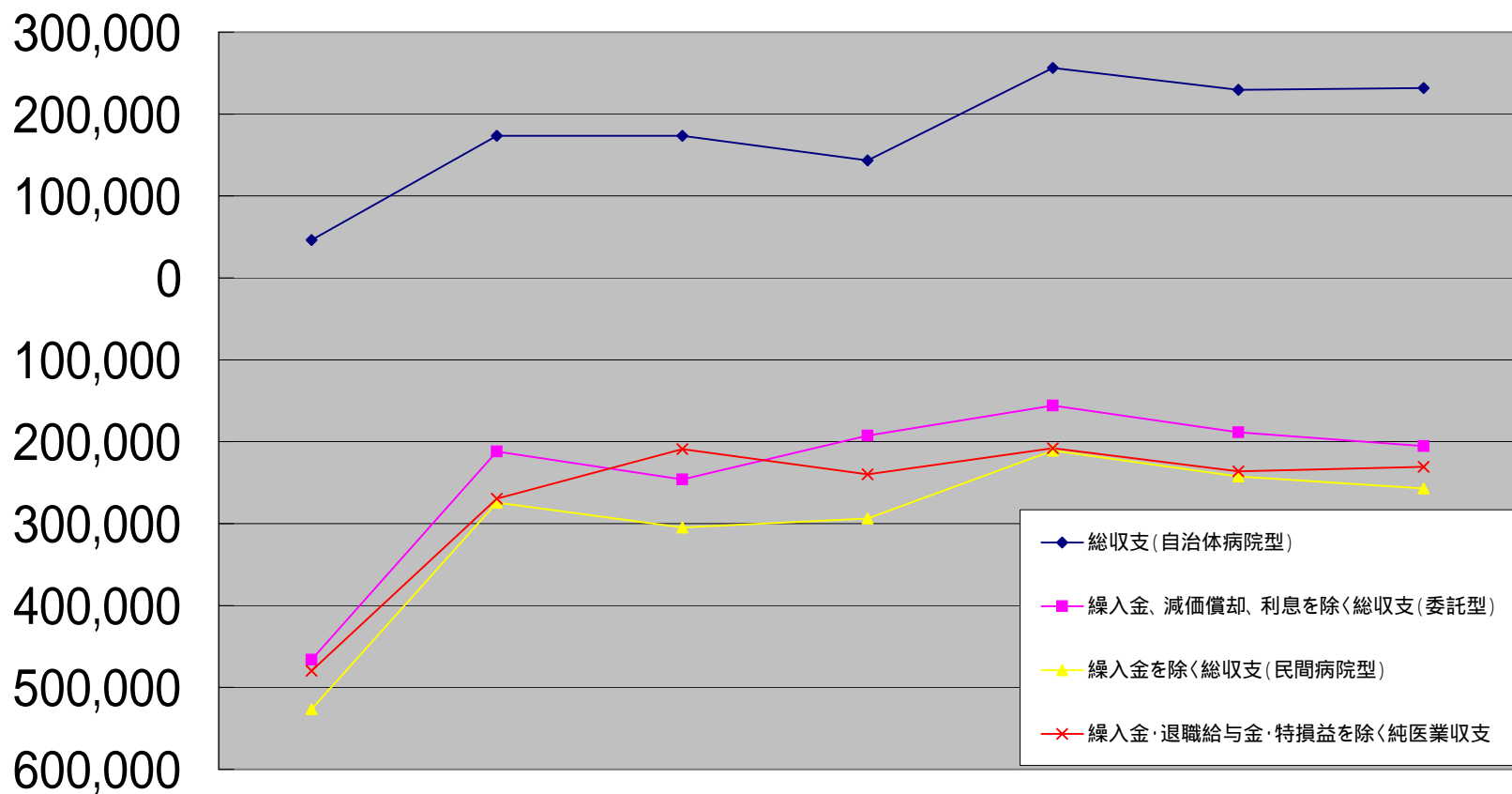
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度見込
総収支(自治体病院型)	4,761	353,833	333,606	352,642	368,556	78,379	336,363
繰入金、減価償却、利息を除く総収支(委託型)	1,482,559	1,829,440	1,480,195	1,208,166	814,756	1,158,997	1,020,631
繰入金を除く総収支(民間病院型)	2,159,937	2,537,893	2,202,110	1,933,292	1,577,995	1,945,927	1,692,829
繰入金・退職給与金・特損益を除く純医業収支	2,089,235	2,443,978	1,874,713	1,639,312	1,412,675	1,798,116	1,513,944

救急医療センターにおける収支の推移



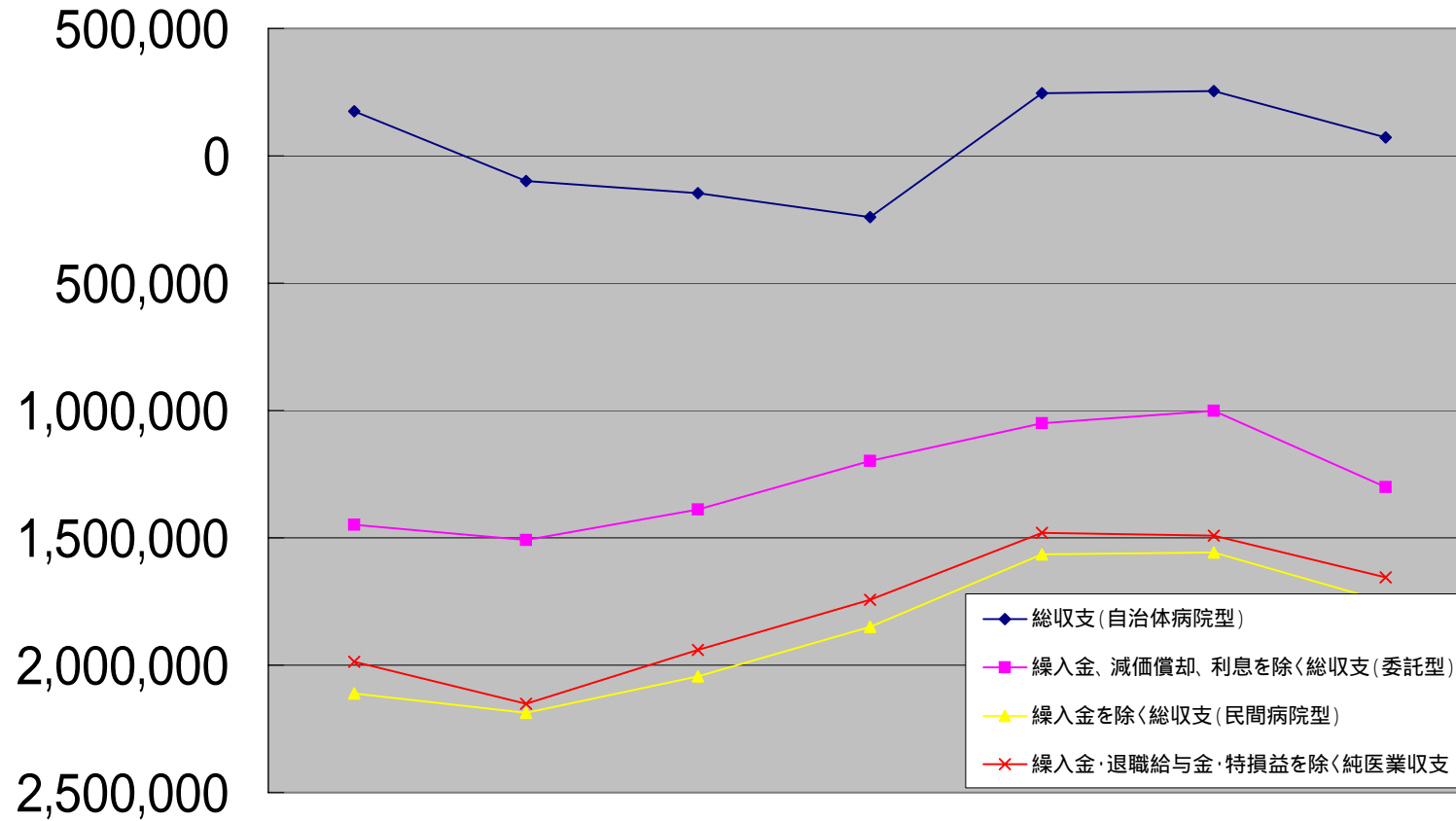
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度見込
総収支(自治体病院型)	140,133	163,487	24,819	10,901	137,960	197,245	252,685
繰入金、減価償却、利息を除く総収支(委託型)	1,739,587	1,513,404	1,365,495	1,374,292	1,239,303	1,242,807	1,241,079
繰入金を除く総収支(民間病院型)	2,006,443	1,777,917	1,604,935	1,613,365	1,501,728	1,522,329	1,539,702
繰入金・退職給与金・特損益を除く純医業収支	1,850,446	1,689,063	1,564,126	1,395,078	1,387,249	1,476,381	1,358,054

精神科医療センターにおける収支の推移



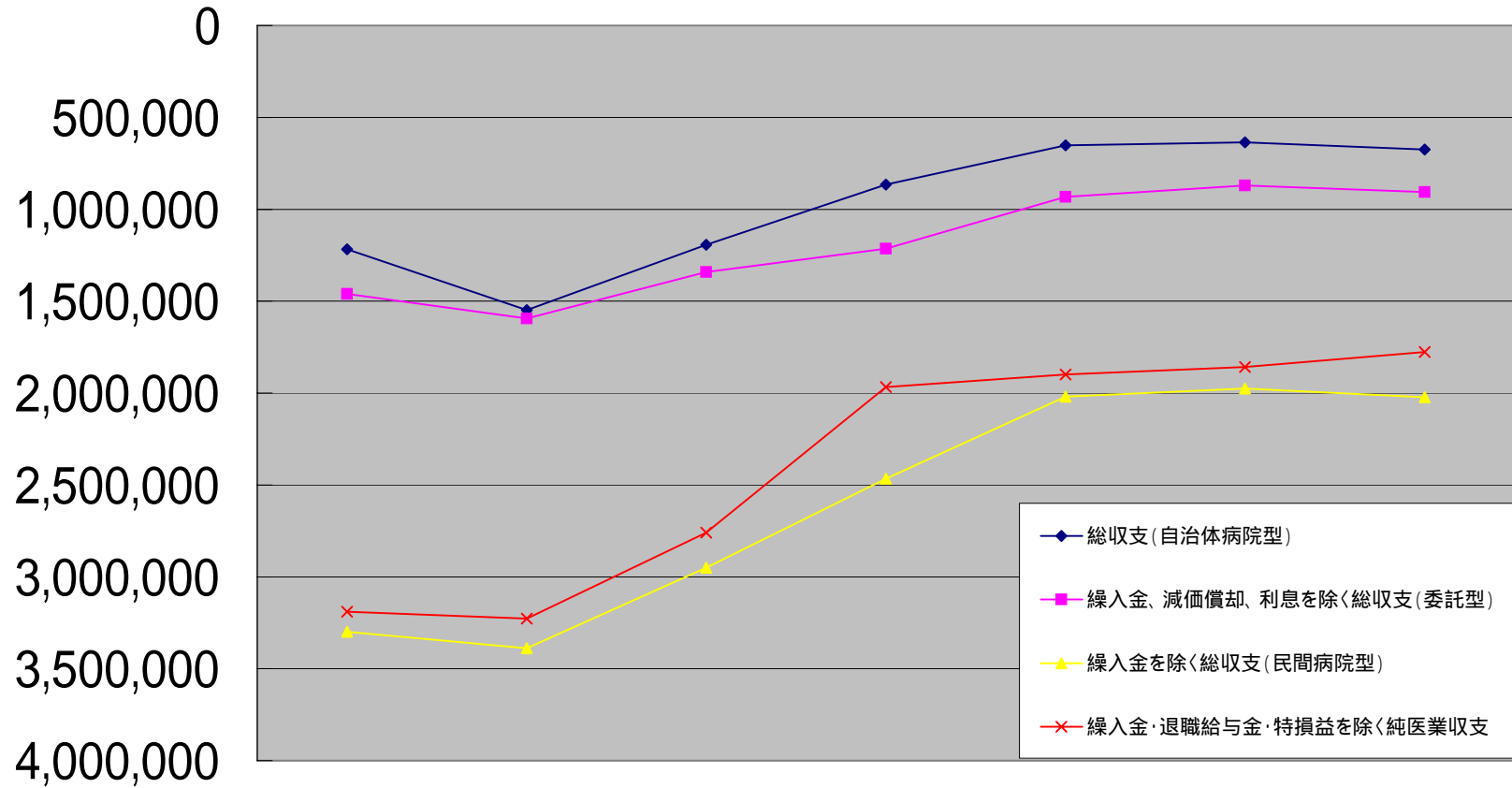
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度見込
総収支(自治体病院型)	46,065	173,371	173,590	143,477	256,516	229,671	231,844
繰入金、減価償却、利息を除く総収支(委託型)	466,033	211,879	246,041	192,724	155,817	188,557	205,426
繰入金を除く総収支(民間病院型)	526,582	274,343	304,835	293,876	210,898	242,520	257,271
繰入金・退職給与金・特損益を除く純医業収支	479,851	269,643	209,065	240,007	208,055	236,137	230,655

こども病院における収支の推移



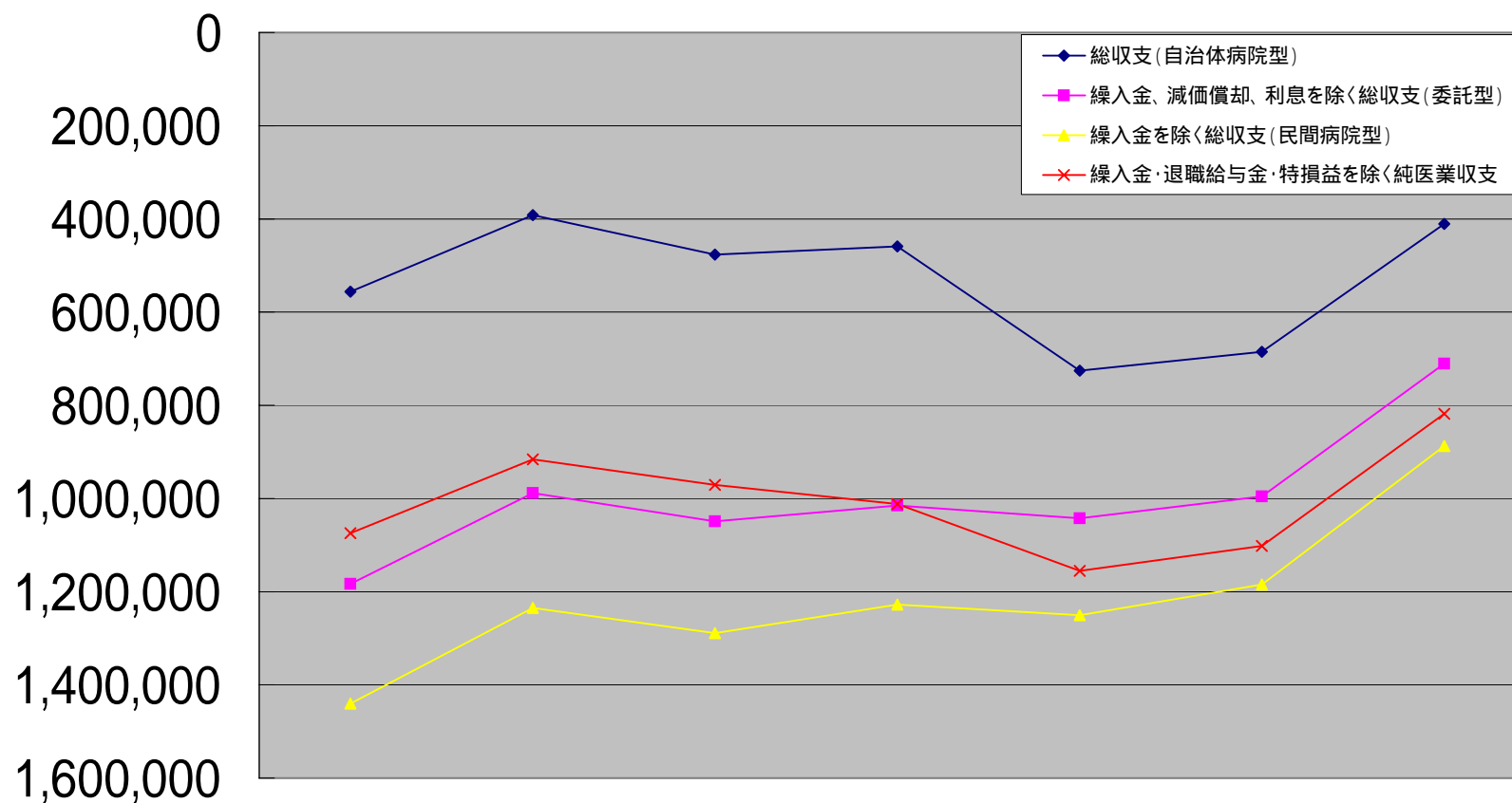
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度見込
総収支(自治体病院型)	175,221	98,560	146,400	240,289	246,084	253,702	71,894
繰入金、減価償却、利息を除く総収支(委託型)	1,448,341	1,508,057	1,388,346	1,198,388	1,050,572	1,000,871	1,301,110
繰入金を除く総収支(民間病院型)	2,111,441	2,187,194	2,043,475	1,850,187	1,564,961	1,557,955	1,750,509
繰入金・退職給与金・特損益を除く純医業収支	1,986,945	2,151,459	1,939,633	1,743,785	1,480,590	1,491,283	1,654,964

循環器病センターにおける収支の推移



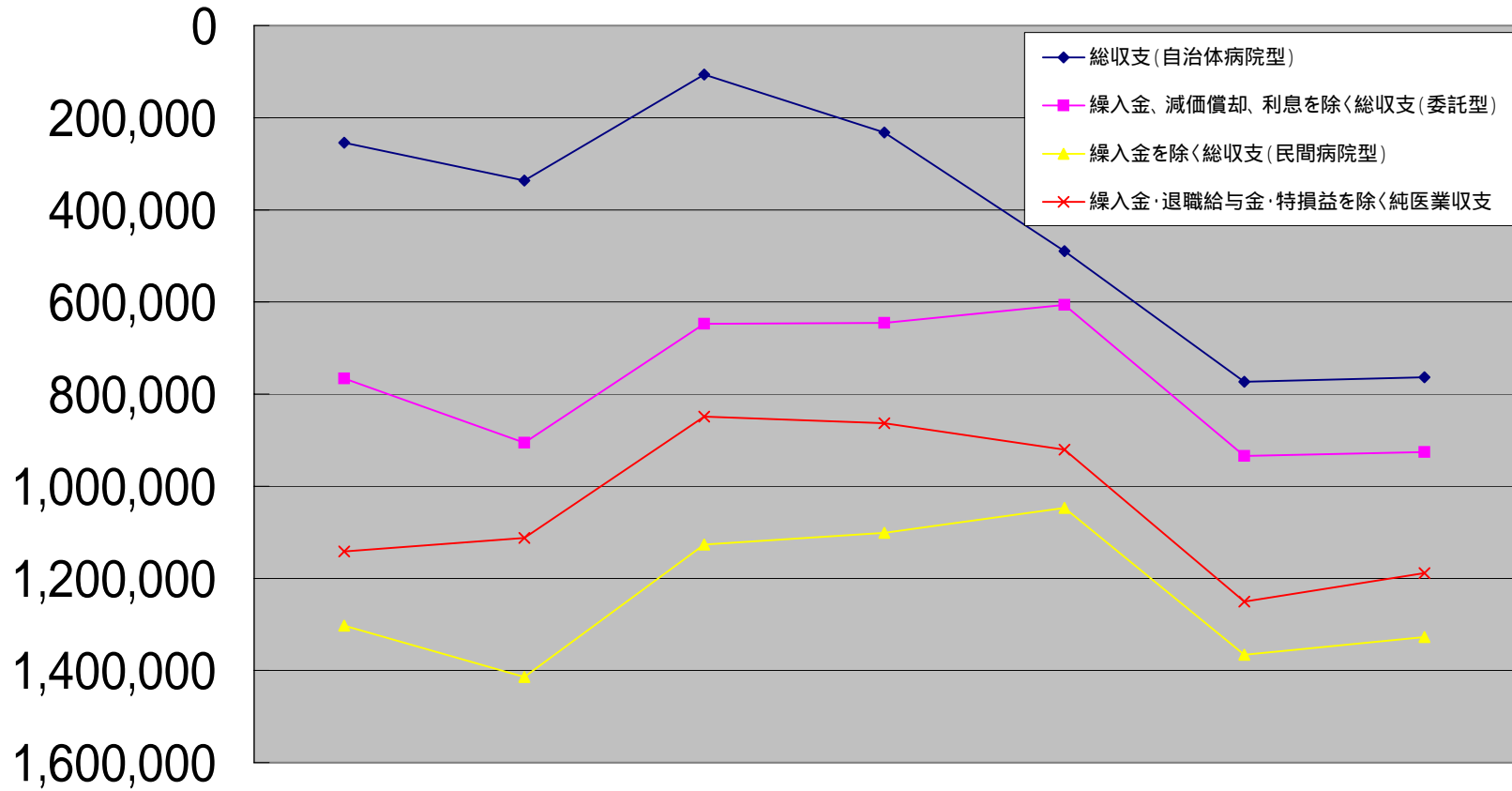
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度見込
総収支(自治体病院型)	1,217,580	1,548,349	1,192,857	864,832	651,804	636,432	675,129
繰入金、減価償却、利息を除く総収支(委託型)	1,460,918	1,593,836	1,341,751	1,214,142	932,021	869,632	906,408
繰入金を除く総収支(民間病院型)	3,299,574	3,388,826	2,949,571	2,466,933	2,019,250	1,975,600	2,022,913
繰入金・退職給与金・特損益を除く純医業収支	3,190,530	3,227,946	2,759,815	1,966,860	1,899,314	1,857,667	1,776,866

東金病院における収支の推移



	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度見込
総収支(自治体病院型)	555,991	391,895	476,731	458,898	725,992	685,242	411,070
繰入金、減価償却、利息を除く総収支(委託型)	1,183,430	988,615	1,048,809	1,014,999	1,042,663	995,641	710,515
繰入金を除く総収支(民間病院型)	1,440,053	1,235,003	1,289,018	1,227,465	1,250,599	1,184,812	887,331
繰入金・退職給与金・特損益を除く純医業収支	1,074,309	916,249	971,003	1,011,827	1,155,537	1,101,834	818,003

佐原病院における収支の推移



	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度見込
総収支(自治体病院型)	254,463	336,445	106,355	232,305	489,658	773,317	763,227
繰入金、減価償却、利息を除く総収支(委託型)	765,835	905,306	647,149	645,730	606,140	934,574	925,741
繰入金を除く総収支(民間病院型)	1,302,421	1,414,316	1,126,625	1,101,223	1,047,290	1,365,922	1,327,189
繰入金・退職給与金・特損益を除く純医業収支	1,141,967	1,112,202	848,584	863,292	920,842	1,250,640	1,188,812

平成19年度病院事業会計の決算見込み

平成20年6月18日
千葉県病院局

当年度の収益的収支の状況は、外来収益が増加し、また、一般会計負担金交付金の増加等により、収入決算額が357億3,300万円（対前年度比2.6%増）となった。一方、支出決算額は、人件費や収益増に伴う材料費の増加等により371億7,700万円（対前年度比1.1%増）となり、当期の欠損金が14億4,400万円、累積欠損金が258億9,700万円となった。

資本的収支の状況は、収入決算額が37億1,700万円、支出決算額は46億4,500万円となり、収支差額は、9億2,800万円となっている。

なお、一般会計からの負担金・交付金の受け入れ額は101億7,900万円で、前年度比2億6,900万円の増となっている。

また、平成19年度の患者数は、医療連携の推進や在院日数の短縮化によって新規入院患者が僅かに増加し、2万1,976人（前年度比90人増）、一方、新規外来患者は、地域病院等における診療体制縮小の影響で減少し、4万4,540人（前年度比831人減）となった。

1 収益的収支

(1) 収益

(単位:千円)

区 分	平成19年度	平成18年度	増減額	増減率 (%)
医 業 収 益	26,624,080	25,988,241	635,839	2.4
うち入院	18,803,322	18,898,262	94,940	0.5
うち外来	7,432,258	6,702,698	729,560	10.9
医 業 外 収 益	9,109,198	8,852,026	257,172	2.9
うち負担金交付金	8,821,992	8,479,476	342,516	4.0
特 別 利 益	0	0	0	
計	35,733,278	34,840,267	893,011	2.6

(2) 費用

(単位:千円)

区 分	平成19年度	平成18年度	増減額	増減率 (%)
医 業 費 用	35,362,104	34,640,058	722,046	2.1
うち給与費	18,256,105	17,547,024	709,081	4.0
うち材料費	8,768,956	8,522,590	246,366	2.9
うち経費	5,703,820	5,765,855	62,035	1.1
うち減価償却費	2,449,444	2,659,611	210,167	7.9
うち資産減耗費	75,857	43,781	32,076	73.3
医 業 外 費 用	1,815,300	2,125,554	310,254	14.6
うち企業債利息等	733,194	759,420	26,226	3.5
特 別 損 失	0	0	0	
計	37,177,404	36,765,612	411,792	1.1

(3) 差引利益(欠損) (単位:千円)

区分	平成19年度	平成18年度	増 減
医業収支	8,738,024	8,651,817	86,207
医業外収支	7,293,898	6,726,472	567,426
経常収支	1,444,126	1,925,345	481,219
特別損益	0	0	0
純利益(欠損)	1,444,126	1,925,345	481,219

翌年度への繰越欠損金 25,897,389千円

<参考> 医業収益に対する費用の割合 (単位:%)

区 分	平成19年度	平成18年度	増 減
医 業 費 用	132.8	133.3	0.5
うち 給与費	68.6	67.5	1.1
うち 材料費	32.9	32.8	0.1
うち 経 費	21.4	22.2	0.8

2 資本的収支

(1) 収 入 (単位:千円)

区 分	平成19年度	平成18年度	増 減 額	増減率 (%)
企業債	2,358,289	1,572,214	786,075	50.0
他会計負担金	1,357,204	1,430,723	73,519	5.1
国庫補助金	0	0	0	
その他	1,980	7,880	5,900	74.9
計	3,717,473	3,010,817	706,656	23.5

(2) 支 出 (単位:千円)

区 分	平成19年度	平成18年度	増 減 額	増減率 (%)
建設改良費	2,109,574	1,712,741	396,833	23.2
企業債償還金	2,455,430	2,039,267	416,163	20.4
他会計長期借入金償還金	80,000	80,000	0	0.0
その他	0	497	497	皆減
計	4,645,004	3,832,505	812,499	21.2

(平成19年度末の企業債未償還残高 28,970,532千円)

(3) 収 支 差 (単位:千円)

区 分	平成19年度	平成18年度
差 引	927,531	821,688

<収支差の補填> 過年度分損益勘定留保資金など
(平成19年度末の損益勘定留保資金残高 2,061,548千円)

3 一般会計繰入金 (単位:千円)

区 分	平成19年度	平成18年度	増 減 額	平成17年度
収益的収支(3条)繰入金	8,821,992	8,479,476	342,516	8,333,261
資本的収支(4条)繰入金	1,357,204	1,430,723	73,519	1,625,060
合 計	10,179,196	9,910,199	268,997	9,958,321

平成19年度 病院別患者数等

(単位:人)

区分 \ 施設名		がんセンター	救急医療センター	精神科医療センター	こども病院	循環器病センター	東金病院	佐原病院	合計	
入院	新入院患者数	19年度	6,813	2,259	462	3,472	4,235	1,916	2,819	21,976
		18年度	6,001	2,331	451	3,831	4,462	1,983	2,827	21,886
		増減	812	72	11	359	227	67	8	90
	延入院患者数	19年度	99,237	30,646	17,628	54,771	65,108	24,471	60,846	352,707
		18年度	100,910	30,183	17,700	60,086	65,099	22,916	62,204	359,098
		増減	1,673	463	72	5,315	9	1,555	1,358	6,391
	一日平均患者数	19年度	271	84	48	150	178	67	166	964
		18年度	276	83	48	165	178	63	170	983
		増減	5	1	0	15	0	4	4	19
	平均在院日数	19年度	14.5	13.6	38.0	14.7	15.4	12.6	18.9	-
		18年度	16.8	12.9	39.2	14.7	14.6	10.9	19.8	-
		増減	2.3	0.7	1.2	0.0	0.8	1.7	0.9	-
	入院単価	19年度	47,174	95,568	32,178	61,000	68,282	36,936	31,807	53,311
		18年度	46,424	88,320	31,755	61,581	67,401	38,371	32,451	52,627
		増減	749	7,248	424	581	881	1,434	644	684
外来	新外来患者数	19年度	5,793	732	737	4,781	10,104	7,094	15,299	44,540
		18年度	5,393	776	690	5,021	11,622	7,829	14,040	45,371
		増減	400	44	47	240	1,518	735	1,259	831
	延外来患者数	19年度	114,885	10,567	38,070	73,711	98,672	61,462	102,017	499,384
		18年度	103,903	9,367	38,082	77,181	118,817	58,126	99,614	505,090
		増減	10,982	1,200	12	3,470	20,145	3,336	2,403	5,706
	一日平均患者数	19年度	391	29	104	251	336	209	347	1,667
		18年度	353	26	104	263	404	198	339	1,687
		増減	38	3	0	12	68	11	8	20
	外来単価	19年度	27,048	27,376	12,132	15,116	7,727	12,313	9,217	14,883
		18年度	22,858	24,982	11,185	14,758	7,324	12,791	9,186	13,270
		増減	4,190	2,394	947	358	403	477	31	1,613

千葉県病院局貸借対照表(平成20年3月31日現在)

区 分			平成19年度		区 分			平成19年度			
			金 額	構成比率				金 額	構成比率		
資産	固定資産	有形固定資産	土地	3,669,101,449	7.73%	負債	固定負債	企業債	0	0.00%	
			建物	28,280,079,799	59.55%			他会計借入金	0	0.00%	
			構築物	403,364,139	0.85%			引当金	0	0.00%	
			器械備品	8,192,900,389	17.25%			年賦未払金	0	0.00%	
			車両	19,035,799	0.04%			その他固定負債	0	0.00%	
			放射性同位元素	0	0.00%			計	0	0.00%	
			建設仮勘定	122,450,010	0.26%		流動負債	一時借入金	0	0.00%	
			その他有形固定資産	33,808,720	0.07%			未払金	4,216,640,825	8.88%	
			小計	40,720,740,305	85.74%			未払費用	0	0.00%	
			無形固定資産	11,370,560	0.02%			前受金	5,516,118	0.01%	
	流動資産	流動資産	投資	1,360,000	0.00%	その他流動負債	189,420,287	0.40%			
			計	40,733,470,865	85.77%	計	4,411,577,230	9.29%			
			現金預金	1,724,889,765	3.63%	合 計	4,411,577,230	9.29%			
			未収金	4,383,309,873	9.23%	資本金	自己資本金	12,070,439,868	25.41%		
			有価証券	0	0.00%		借入 資本金	企業債	28,970,532,263	61.00%	
			貯蔵品	285,160,823	0.60%			他会計借入金	170,000,000	0.36%	
			短期貸付金	0	0.00%			小 計	29,140,532,263	61.36%	
			前払費用	0	0.00%		計	41,210,972,131	86.77%		
			前払金	0	0.00%		資本金	資本 剰余金	受贈財産評価額	52,293,279	0.11%
			その他流動資産	79,764,800	0.17%				寄付金	65,874,502	0.14%
計	6,473,125,261	13.63%	補助金	648,855,867	1.37%						
繰延勘定	286,999,868		他会計負担金	26,985,286,829	56.82%						
			その他資本剰余金	16,125,000	0.03%						
			小 計	27,768,435,477	58.47%						
			利益 剰余金	減債積立金	0	0.00%					
				利益積立金	0	0.00%					
				建設改良積立金	0	0.00%					
				その他積立金	0	0.00%					
				当年度未処分利益剰余金・欠損金	-25,897,388,844	-54.53%					
			小 計	-25,897,388,844	-54.53%						
			計	1,871,046,633	3.94%						
			合 計	43,082,018,764	90.71%						
			資産合計	47,493,595,994	100.00%	負債・資本合計	47,493,595,994	100.00%			

各施設の経営状況について

平成20年6月18日

- 1 千葉県がんセンター
- 2 千葉県救急医療センター
- 3 千葉県精神科医療センター
- 4 千葉県こども病院
- 5 千葉県循環器病センター
- 6 千葉県立東金病院
- 7 千葉県立佐原病院

千葉県がんセンター

平成15～19年度 決算

病院名:がんセンター

(単位:千円)

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
		341床 決算	341床 決算	341床 決算	341床 決算	341床 決算見込
収益	医業収益 A	6,410,345	6,647,174	7,243,587	7,182,498	7,922,443
	入院収益	4,368,680	4,491,702	4,762,024	4,684,687	4,681,376
	外来収益	1,945,317	2,052,095	2,360,355	2,374,969	3,107,387
	その他医業収益	96,348	103,378	121,207	122,843	133,680
	医業外収益 B	1,927,585	1,650,729	2,057,777	2,159,541	2,160,957
	一般会計繰入金 Y	1,868,504	1,580,650	1,946,552	2,024,307	2,029,193
	その他医業外収益	59,081	70,079	111,225	135,234	131,764
	特別利益 C	0	0	0	0	0
	収益計 (A+B+C)=D	8,337,930	8,297,903	9,301,364	9,342,040	10,083,400
純収益計 (D-Y-C-)=R	6,469,426	6,701,298	7,319,352	7,275,688	8,054,207	
費用	医業費用 E	8,369,700	8,296,679	8,612,947	8,914,559	9,344,046
	給与費	4,040,363	3,883,489	3,943,511	4,124,306	4,186,995
	材料費	2,322,687	2,394,735	2,546,427	2,615,781	2,944,921
	経費	1,285,984	1,271,209	1,327,551	1,379,103	1,530,830
	減価償却費	670,548	677,318	717,531	740,169	617,343
	その他医業費用	50,118	69,928	77,927	55,199	63,957
	医業外費用 F	301,836	288,941	318,162	349,102	402,990
	支払利息	51,367	47,809	45,708	46,761	54,856
	その他医業外費用	250,469	241,133	272,455	302,341	348,134
	特別損失 G	0	64,925	1,697	0	0
	費用計 (E+F+G)=H	8,671,536	8,650,545	8,932,807	9,263,661	9,747,036
純費用計 (H-G-Z-)=S	8,344,139	8,311,526	8,644,962	8,979,204	9,568,152	
医業収支 (A-E)=I	1,959,355	1,649,506	1,369,361	1,732,060	1,421,603	
經常収支 (A+B-E-F)=J	333,606	287,718	370,254	78,379	336,364	
総収支 (D-H)=K	333,606	352,643	368,557	78,379	336,364	
医業収支比率 (A/E)=Q	76.6%	80.1%	84.1%	80.6%	84.8%	
純医業収支 (R-S)=T	1,874,713	1,610,229	1,325,610	1,703,517	1,513,945	
純医業収支比率 (R/S)=U	77.5%	80.6%	84.7%	81.0%	84.2%	
繰入金対医業収支比率 (Y/A)	29.1%	23.8%	26.9%	28.2%	25.6%	
繰入金対經常収支比率 (Y/(A+B))	22.4%	19.0%	20.9%	21.7%	20.1%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	57.9%	55.0%	52.2%	55.4%	50.6%	
材料比率 (/A)=W	36.2%	36.0%	35.2%	36.4%	37.2%	
経費比率 (/A)=X	20.1%	19.1%	18.3%	19.2%	19.3%	

退職給与金 Z	327,397	229,055	163,623	147,811	178,884
---------	---------	---------	---------	---------	---------

退職給与金 Z は純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。

臨床研修補助金	15,955	35,460	42,045		
臨床研修費用	45,039	122,525	136,645		

臨床研修補助金及び臨床研修費用は純医業収益・純医業費用算出の際に控除されています。

純医業収支比率(U)は、一般会計繰入金や退職給与金など病院事業に直接関わらない又、年度間で変動が多く特殊要因となるや費用をそれぞれ総収益、総費用から除いた収支比率として、経営指標の一つとして考えているものです。

$$(\text{算式}) \quad \text{純医業収支比率} = \frac{(\text{総収益} - \text{一般会計繰入金} - \text{特別利益})}{(\text{総費用} - \text{退職給与金} - \text{特別損失})} \times 100$$

給与比率(V)は、給与費から年度間で変動が多く特殊要因となる退職給与金を控除した額を医業収益で除したものです。

一般会計繰入金(Y)は、救急医療の確保に要する経費及び高度・特殊医療に要する経費など、その性質上経営に伴う収入をもつて充てることが適当でない経費や性質上能率的な経営を行っても収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費を一般会計が総務省の定める繰出基準を基本に負担するものです。

(根拠法令等: 地方公営企業法第17条の2、地方公営企業繰出金について(総務省通知))

主要経営指標

がんセンターの決算(15年度～19年度)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	341床	341床	341床	341床	341床
新入院患者数(人)	4,050	4,318	5,508	6,001	6,813
延入院患者数(人)	104,858	105,154	108,062	100,910	99,237
新規外来患者数(人)	4,050	4,436	5,076	5,393	5,793
延外来患者数(人)	97,308	101,226	110,379	103,903	114,885
入院単価(円)	41,663	42,715	44,068	46,424	47,188
外来単価(円)	19,991	20,272	21,384	22,858	27,070
稼動病床利用率(%)	84.0%	84.5%	86.8%	81.1%	79.7%
平均在院日数(日)	25.7	24.1	19.2	16.8	14.5
手術件数(件)	2,107	2,546	3,109	3,105	3,374
職員数	410	402	412	437	455
医師	62	57	64	64	79
看護師	241	245	248	274	272
(看護師の平均年齢)	30.8	31.7	32.1	32.8	33.6
その他	107	100	100	99	104

平成18年度 類似病院との決算の比較

病院名: がんセンター

(単位:千円)

区 分		18年度	18年度	差引 (がん - 埼玉)	18年度	差引 (がん - 神奈川)
		341床 千葉県がんセンター	400床 埼玉県がんセンター		415床 神奈川県がんセンター	
収益	医業収益 A	7,182,498	10,130,885	2,948,387	10,181,968	2,999,470
	入院収益	4,684,687	5,999,795	1,315,108	5,621,059	936,372
	外来収益	2,374,969	3,699,928	1,324,959	3,168,414	793,445
	その他医業収益	122,843	431,162	308,319	1,392,495	1,269,652
	医業外収益 B	2,159,541	1,818,147	341,394	1,813,114	346,427
	一般会計繰入金 Y	2,024,307	1,756,214	268,093	1,627,886	396,421
	その他医業外収益	135,234	61,933	73,301	185,228	49,994
	特別利益 C	0	0	0	0	0
	収益計 (A+B+C)=D	9,342,040	11,949,032	2,606,992	11,995,082	2,653,042
	純収益計 (D-Y-C)=R	7,275,688	10,192,818	2,917,130	10,367,196	3,091,508
費用	医業費用 E	8,914,559	11,264,856	2,350,297	11,549,282	2,634,723
	給与費	4,124,306	5,136,568	1,012,262	5,693,632	1,569,326
	材料費	2,615,781	3,345,315	729,534	3,376,709	760,928
	経費	1,379,103	1,756,728	377,625	1,804,890	425,787
	減価償却費	740,169	842,972	102,803	540,760	199,409
	その他医業費用	55,199	183,273	128,074	133,291	78,092
	医業外費用 F	349,102	436,863	87,761	499,117	150,015
	支払利息	46,761	99,742	52,981	272,327	225,566
	その他医業外費用	302,341	337,121	34,780	226,790	75,551
	特別損失 G	0	0	0	0	0
費用計 (E+F+G)=H	9,263,661	11,701,719	2,438,058	12,048,399	2,784,738	
純費用計 (H-G-Z)=S	8,979,204	11,516,830	2,537,626	11,592,461	2,613,257	
医業収支 (A-E)=I	1,732,060	1,133,971	598,089	1,367,314	364,746	
経常収支 (A+B-E-F)=J	78,379	247,313	168,934	53,317	131,696	
総収支 (D-H)=K	78,379	247,313	168,934	53,317	131,696	
医業収支比率 (A/E)=Q	80.6%	89.9%	-9.3%	88.2%	-7.6%	
純医業収支 (R-S)=T	1,703,517	1,324,012	379,505	1,225,265	478,252	
純医業収支比率 (R/S)=U	81.0%	88.5%	-7.5%	89.4%	-8.4%	
繰入金対医業収支比率 (Y/A)	28.2%	17.3%	10.9%	16.0%	12.2%	
繰入金対経常収支比率 (Y/(A+B))	21.7%	14.7%	7.0%	13.6%	8.1%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	55.4%	48.9%	6.5%	51.4%	4.0%	
材料比率 (/A)=W	36.4%	33.0%	3.4%	33.2%	3.2%	
経費比率 (/A)=X	19.2%	17.3%	1.9%	17.7%	1.5%	

退職給与金 Z	147,811	184,889	455,938
臨床研修補助金	42,045		
臨床研修費用	136,645		

退職給与金 Z は純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。

臨床研修補助金 及び臨床研修費用 は純医業収益・純医業費用算出の際に控除されています。
類似病院の数値は、総務省の平成18年度地方公営企業年鑑の病院事業の個表から引用

主要経営指標

がんセンターと類似病院との決算比較(18年度)

	千葉県 がんセンター 341床	埼玉県 がんセンター 400床	神奈川県 がんセンター 415床
新入院患者数(人)	6,001	6,959	6,580
延入院患者数(人)	100,910	130,570	134,543
新規外来患者数(人)	5,393	6,959	7,375
延外来患者数(人)	103,903	195,808	178,026
入院単価(円)	46,424	45,951	42,204
外来単価(円)	22,858	18,896	18,093
稼働病床利用率(%)	81.1%	89.4	87.9
平均在院日数(日)	16.8	15.8	19.5
手術件数(件)	3,105	2,896	2,790
職員数(人)	437	535	533
医師	64	73	74
看護師	274	313	317
(看護師の平均年齢)	(33)	(33)	(34)
その他	99	149	142
看護基準	7対1	10対1	10対1

埼玉県では、新規患者を入院・外来で分けていない

経営評価

1 全体的評価

がんセンターでは、新規外来患者優先と良質な医療の提供の運営方針に基づき、平均在院日数の短縮と新規患者数の増加等に努めているところであり、実績として、新入院患者数では15年度の1.7倍、新外来患者数で1.4倍となっている。

また、外来化学療法や放射線治療、内視鏡等の低侵襲治療、在宅医療など、医療技術の進歩による良質な医療の提供が進んでおり、入院から外来に患者が大きくシフトしつつある状況である。

これらの、新患増加策と、手術件数の増加や7対1看護基準などによる単価増により、医業収益は拡大の方向にあり、15年度と比べると、19年度の入院収益は7%程度の微増であるが、外来収益は1.6倍と大幅に増加している。その結果として、医業収支の改善が進み、総収支の黒字化につながっている。

2 18年度決算までの評価と特殊要因等

18年度までは、前述のとおり、新規患者の増加等に努めてきたことから、医業収支の改善がされてきている。10年度には67.5%であった医業収支比率は、16年度からは80%台まで改善し推移している。特に、17年度からは飛躍的に医業収益が伸び、総収支でも黒字化している。

18年度は、7対1看護基準等による人件費増や、電子カルテ導入による減価償却費増等により、医業費用が増加したが、総収支では黒字を維持できた。

3 19年度決算の評価

19年度は、平均在院日数の短縮と患者増加策をさらに進めた結果、新入院患者数で13.5%、新外来患者数で7.4%、18年度より増加しており、単価増もあって、入院収益は横ばいだったものの、外来収益では3割増となった。また、費用についても、不要な費用の削減と必要な費用の投入に努めてきたところである。なお、総収支では、前年度を2億5千8百万円上回る、3億3千6百万円の黒字となった。

これを10年前の10年度と比較してみると、医業収益は24.4億円増加しているが、医業費用は12.2億円の増加であり、医業収支で12.2億円改善していることになる。特に、給与比率では、医業収益の増加と、県全体の給与削減等の影響もあり、10年度の71.0%から50.6%と大きく改善している。

【参考】	医業収益	医業費用	医業収支	総収支	給与比率
10年度	54.8億円	81.2億円	26.4億円	4.6億円	71.0%
15年度	64.1億円	83.7億円	19.6億円	3.3億円	57.9%
19年度	79.2億円	93.4億円	14.2億円	+3.4億円	50.6%

経営の課題

1 診療体制整備による患者の更なる増加

がんセンターでは、外来診療の新患優先、外科系診療科の毎日外来・毎日手術、平均在院日数の短縮等に取り組んできたところであり、新規患者数の増加と外来収益の増加として成果も上がっている。さらに、内視鏡治療等の低侵襲治療や、外来化学療法、放射線治療、在宅医療等の技術の進歩で、多くの患者が通院治療可能になるなど、入院から外来への患者のシフト等が進んでいる。

そのため、入院・外来間、診療科間等での医療資源の配分、必要な医師、病床、看護体制、機器等を検討し、最大のパフォーマンスがあげられる診療体制の整備が必要である。

- ・必要な医師の確保は前提であるが、それが困難な場合には、医師の業務負担を軽減するメディカルクラークの導入の検討
- ・手術等のパフォーマンスを最大限に発揮していくため、特に麻酔科の充実

2 確実な診療報酬請求と DPC 制度導入等による経営基盤の安定化

平成18年4月から電子カルテを導入し、その経営分析情報等を活用して、平成20年7月から DPC 制度を導入する予定であるが、制度導入に伴い、さらにきめ細かい分析とフォローにより最大限の効果をあげていきたい。

また、請求漏れ等の無い、より確実な診療報酬請求を行うため、医事業務について委託から直営化を検討し、将来的な人材の育成を含めて、経営基盤の安定化を図っていく必要がある。

3 がん医療の今後を見据えた施設整備

施設が老朽化し耐震診断で改修が必要とされている建物（西病棟）もある。政策的にも、がん対策強化の中で、県立がんセンターとしての役割・機能を果たし、経営強化にもつなげる診療体制の見直しと、そのための施設整備を検討していく必要がある。

現在見直しが進められている将来構想の提言を受けて、早急に具体的な施設整備計画の策定を進めていきたい。

千葉県救急医療センター

平成15～19年度 決算

病院名:救急医療センター

(単位:千円)

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
		100床 決算	100床 決算	100床 決算	100床 決算	100床 決算見込
収益	医業収益 A	2,966,271	2,997,397	2,761,549	2,924,366	3,241,250
	入院収益	2,737,674	2,749,482	2,516,554	2,665,766	2,928,776
	外来収益	208,678	224,146	221,707	234,007	289,279
	その他医業収益	19,919	23,769	23,288	24,593	23,195
	医業外収益 B	1,715,038	1,708,657	1,715,648	1,742,602	1,813,523
	一般会計繰入金 Y	1,629,755	1,624,267	1,639,689	1,719,575	1,792,388
	その他医業外収益	85,283	84,390	75,959	23,027	21,135
	特別利益 C		4,140			
	収益計 (A+B+C)=D	4,681,309	4,710,194	4,477,197	4,666,968	5,054,773
	純収益計 (D-Y-C-Z)=R	2,993,244	3,025,944	2,781,746	2,947,393	3,262,385
費用	医業費用 E	4,450,394	4,478,668	4,087,376	4,251,079	4,609,258
	給与費	2,426,274	2,523,689	2,300,752	2,329,359	2,528,723
	材料費	1,233,362	1,139,298	1,012,498	1,060,925	1,192,307
	経費	620,738	637,177	561,712	619,851	619,519
	減価償却費	153,711	162,846	195,093	221,070	248,658
	その他医業費用	16,309	15,658	17,321	19,874	20,051
	医業外費用 F	206,096	206,767	216,069	218,645	192,829
	支払利息	85,729	76,227	67,333	58,452	49,965
	その他医業外費用	120,367	130,540	148,736	160,193	142,864
	特別損失 G		13,858	35,792		
費用計 (E+F+G)=H	4,656,490	4,699,293	4,339,237	4,469,724	4,802,087	
純費用計 (H-G-Z)=S	4,615,680	4,476,866	4,224,759	4,423,776	4,620,439	
医業収支 (A-E)=I	1,484,123	1,481,271	1,325,827	1,326,713	1,368,008	
經常収支 (A+B-E-F)=J	24,819	20,619	173,752	197,244	252,686	
総収支 (D-H)=K	24,819	10,901	137,960	197,244	252,686	
医業収支比率 (A/E)=Q	66.7%	66.9%	67.6%	68.8%	70.3%	
純医業収支 (R-S)=T	1,622,436	1,450,922	1,443,013	1,476,383	1,358,054	
純医業収支比率 (R/S)=U	64.8%	67.6%	65.8%	66.6%	70.6%	
繰入金対医業収支比率 (Y/A)	54.9%	54.2%	59.4%	58.8%	55.3%	
繰入金対經常収支比率 (Y/(A+B))	34.8%	34.5%	36.6%	36.8%	35.5%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	80.4%	77.2%	80.5%	78.1%	72.4%	
材料比率 (/A)=W	41.6%	38.0%	36.7%	36.3%	36.8%	
経費比率 (/A)=X	20.9%	21.3%	20.3%	21.2%	19.1%	

退職給与金 Z	40,810	208,569	78,686	45,948	181,648
運営費補助金 Z'	58,310	55,843	55,762	-	-

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。

運営費補助金Z'は純収益算出の際に控除されています。

純医業収支比率(U)は、一般会計繰入金や退職給与金など病院事業に直接関わらない又、年度間で変動が多く特殊要因となるや費用をそれぞれ総収益、総費用から除いた収支比率として、経営指標の一つとして考えているものです。

$$\text{(算式)} \quad \text{純医業収支比率} = \frac{(\text{総収益} - \text{一般会計繰入金} - \text{特別利益})}{(\text{総費用} - \text{退職給与金} - \text{特別損失})} \times 100$$

給与比率(V)は、給与費から年度間で変動が多く特殊要因となる退職給与金を控除した額を医業収益で除したものです。

一般会計繰入金(Y)は、救急医療の確保に要する経費及び高度・特殊医療に要する経費など、その性質上経営に伴う収入をもつてることが適当でない経費や性質上能率的な経営を行っても収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費を一般会計が総務省の定める繰出基準を基本に負担するものです。

(根拠法令等：地方公営企業法第17条の2、地方公営企業繰出金について(総務省通知))

主要経営指標

救急医療センターの決算(15年度～19年度)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	100床	100床	100床	100床	100床
新入院患者数(人)	2,098	2,109	2,081	2,331	2,259
延入院患者数(人)	29,376	30,198	29,458	30,183	30,646
新規外来患者数(人)	629	759	784	776	732
延外来患者数(人)	9,393	9,804	9,463	9,367	10,567
入院単価(円)	93,194	91,048	85,429	88,334	95,692
外来単価(円)	22,216	22,863	23,429	24,993	27,370
稼動病床利用率(%)	80.3%	82.7%	80.7%	82.7%	83.7%
平均在院日数(日)	14.0	14.3	14.2	12.9	13.6
手術件数(件)	2,597	2,551	1,939	2,105	2,413
職員数	272	257	255	259	263
医師	38	35	35	37	37
看護師	159	152	153	158	161
(看護師の平均年齢)	31.7	32.4	32.6	33.5	34.3
その他	75	70	67	64	65

平成18年度 類似病院との決算の比較

病院名: 救急医療センター

(単位: 千円)

区 分		18年度	18年度	差引 (救急 - 大阪)	18年度	差引 (救急 - 兵庫)
		100床 救急医療センター	41床 大阪府三島救命救急センター		30床 兵庫県災害医療センター	
収益	医業収益 A	2,924,366	1,445,670	1,478,696	1,558,150	1,366,216
	入院収益	2,665,766	1,404,182	1,261,584	1,489,879	1,175,887
	外来収益	234,007	41,488	192,519	61,998	172,009
	その他医業収益	24,593	0	24,593	6,273	18,320
	医業外収益 B	1,742,602	742,700	999,902	439,489	1,303,113
	一般会計繰入金 Y	1,719,575	0	1,719,575	401,360	1,318,215
	その他医業外収益	23,027	742,700	719,673	38,129	15,102
	特別利益 C			0	1,307	1,307
	収益計 (A+B+C)=D	4,666,968	2,188,370	2,478,598	1,998,946	2,668,022
	純収益計 (D-Y-C)=R	2,947,393	1,445,670	1,501,723	1,596,279	1,351,114
費用	医業費用 E	4,251,079	2,027,302	2,223,777	2,011,641	2,239,438
	給与費	2,329,359	1,019,250	1,310,109	1,032,535	1,296,824
	材料費	1,060,925	469,148	591,777	664,095	396,830
	経費	619,851	382,079	237,772	268,695	351,156
	減価償却費	221,070	156,825	64,245	0	221,070
	その他医業費用	19,874	0	19,874	46,316	26,442
	医業外費用 F	218,645	1,105	217,540	59,558	159,087
	支払利息	58,452	1,105	57,347	49,269	9,183
	その他医業外費用	160,193	0	160,193	10,289	149,904
	特別損失 G		0	0	43,038	43,038
費用計 (E+F+G)=H	4,469,724	2,028,407	2,441,317	2,114,237	2,355,487	
純費用計 (H-G-Z)=S	4,423,776	1,957,406	2,466,370	2,064,317	2,359,459	
医業収支 (A-E)=I	1,326,713	581,632	745,081	453,491	873,222	
経常収支 (A+B-E-F)=J	197,244	159,963	37,281	73,560	270,804	
総収支 (D-H)=K	197,244	159,963	37,281	115,291	312,535	
医業収支比率 (A/E)=Q	68.8%	71.3%	-2.5%	77.5%	-8.7%	
純医業収支 (R-S)=T	1,476,383	511,736	964,647	468,038	1,008,345	
純医業収支比率 (R/S)=U	66.6%	73.9%	-7.3%	77.3%	-10.7%	
繰入金対医業収支比率 (Y/A)	58.8%	0.0%	58.8%	25.8%	33.0%	
繰入金対経常収支比率 (Y/(A+B))	36.8%	0.0%	36.8%	20.1%	16.7%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	78.1%	65.6%	12.5%	65.8%	12.3%	
材料比率 (/A)=W	36.3%	32.5%	3.8%	42.6%	-6.3%	
経費比率 (/A)=X	21.2%	26.4%	-5.2%	17.2%	4.0%	
退職給与金 Z	45,948	71,001		6,882		

大阪府三島救命救急センターのその他医業外収益は国等からの補助金なので、純収益算出の際に控除されています。
退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。
類似病院の数値は、当センター調べ

主要経営指標

救急医療センターと類似病院との決算比較(18年度)

	救急医療センター 100床	大阪府三島救命救 急センター 41床	兵庫県災害医療 センター 30床
新入院患者数(人)	2,331	1,058	972
延入院患者数(人)	30,183	12,559	9,710
新規外来患者数(人)	776	514	308
延外来患者数(人)	9,367	1,260	308
入院単価(円)	88,334	111,807	153,438
外来単価(円)	24,993	32,927	201,293
稼働病床利用率(%)	82.7	83.9	88.7
平均在院日数(日)	12.9	8.8	9.0
手術件数(件)	2,105	451	1,217
職員数(人)	259	127	115
医師	37	20	22
看護師	158	70	76
(看護師の平均年齢)	33.5	26.0	31.0
その他	64	37	17

経営評価

1 全体的評価

独立型救命救急センターという意味では、当センターの国内における類似病院と思われるのは、大阪府三島救命救急センターと兵庫県災害医療センターとなりますが、当センターと比較した場合、周辺環境や規模などの面で大きく条件が異なっているため、単純に比較するのは難しいと思われます。

2 18年度決算までの評価と特殊要因等

(1) 15年度から18年度までを見ると、収益は5%前後の範囲でほぼ横ばいで推移してきましたが、総収支の状況は年々改善されてきました。

これは、収益が17年度の一時的な低下を除き47億円前後を確保できた一方、材料費の節減等により費用が減少したため、医業収支比率が毎年改善されてきたためであると考えられます。

(2) 17年度は、他の年度と比較すると医業収益が低調となりましたが、これは、ICUの受入制限を実施した影響により延入院患者数が減少し、また、入院単価も低下したためです。

一方、18年度は、延入院患者数が増加し、入院単価も上昇したため、17年度と比べ医業収益が162,817千円と大幅に増加しました。(なお、医業外収益が26,954千円増加しているのは、運営費補助金の廃止があったものの、医師・看護師数の増加により一般会計繰入金が増加したためです。)

そして、18年度は患者数の増加に伴い費用も増加しましたが、収益の増加が上回り、総収支としては、197,244千円の黒字となり、良好な収支となりました。

3 19年度決算見込の評価

(1) 19年度決算見込の総収支は、良好だった18年度の総収支を更に55,442千円上回り、252,686千円となりました。

これは、前年度と比較して、医業収益のうち入院収益が263,010千円、外来収益が55,272千円と大幅に増加したもので、主な要因は入院単価、外来単価とも9%前後上昇し、また、延入院患者数が463人、延外来患者数が1,200人増加したためです。

(2) 給与費が199,364千円と大幅に増加したのは、退職給与金が18年度と比較して135,700千円増加したのが主な理由です。

(3) 材料比率が0.5%高くなったのは、手術件数が大幅に増加(308件の増)したのに伴い、診療材料費及び薬品費が増加し医業収益の伸びを上回ったためです。

経営の課題

医療面及び経営面とも新たな施設整備によって、人的医療資源が最大のパフォーマンスを展開できると考えているとともに、施設の老朽化は、大規模修繕のための長期間の入院制限といった、経営上の大きなリスクを背負った状態ともいえます。

そのため、新たな施設整備が経営の最大の課題ですが、当面の経営上の課題としては、以下のとおりです。

1 患者受け入れ態勢の強化(による入院患者数の増加)

(1) 課題

第三次救急医療施設として365日、24時間体制で重篤救急患者さんを受け入れるためには、常に病床に余裕をもたせて運営していく必要がありますが、一方で施設の規模(集中治療室20床、一般病床80床)や職員の体制には限界があり、受け入れ要請に応じきれないことがあります。このような事態を極力少なくすることが大きな課題です。

(2) 取組

新しい重篤救急患者さんを受け入れるためには、入院中の患者さんの平均在院日数を極力短縮し、急性期治療が終了した患者さんは可及的速やかに転院していただく必要があります。そこで、地域医療連携室を強化し、県内の医療機関との情報交換、地域医療連携パスの効果的利用等を通じて、循環型地域医療連携システムのなかで効率の良い運営をしていきます。

また、院内におけるベッドコントロールをより強化し、特に集中治療室の効率的運用を図ります。

2 経営基盤の確立

(1) 課題

独立型救命救急センターという施設であるため、経営的には不採算となりやすい状況にあります。

また、緊急入院がほとんどであることから患者さん自らの意思で入院することが少ないこと、また、症状が重篤であり医療費が高額となることから個人負担の未収金が発生しやすい状況にあります。

(2) 取組

次のような取り組みで、経営基盤の確立を図ります。

- ① 効率的運営や良質な医療の提供により平均在院日数を短縮し、多くの新規患者さんの診療を行うことで、入院収益の増加を図ります。
- ② 他の県立病院との医療材料の共同購入や後発医薬品(ジェネリック医薬品)の導入等によって支出を抑えます。
- ③ 個人負担未収金については、今後とも、患者さんに対する医療費に関する説明、様々な医療制度・保険制度に関する説明・助言、患者さんからの相談に応ずること等によって発生防止に努めるとともに、発生した未収金については、文書による督促・催告、電話・戸別訪問による催告、支払い方法の相談、法的措置を行い回収に努めます。

千葉県精神科医療センター

平成15～19年度 決算

病院名：精神科医療センター

(単位：千円)

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
		50床 決算	50床 決算	50床 決算	50床 決算	50床 決算見込
収益	医業収益 A	878,333	890,025	948,361	995,567	1,039,404
	入院収益	525,354	522,168	544,667	562,058	567,237
	外来収益	347,651	361,610	396,003	425,940	461,862
	その他医業収益	5,328	6,247	7,691	7,569	10,305
	医業外収益 B	488,895	450,646	478,972	492,926	509,064
	一般会計繰入金 Y	478,426	437,354	467,415	472,192	489,116
	その他医業外収益	10,469	13,292	11,557	20,734	19,948
	特別利益 C		1,258	0		
	収益計 (A+B+C)=D	1,367,228	1,341,929	1,427,333	1,488,493	1,548,468
純収益計 (D-Y-C)=R	888,802	903,317	959,918	1,016,301	1,059,352	
費用	医業費用 E	1,130,605	1,135,825	1,111,668	1,200,556	1,257,753
	給与費	803,018	760,615	723,531	758,048	802,014
	材料費	165,340	176,656	202,966	239,630	261,051
	経費	135,714	171,365	157,154	172,594	164,956
	減価償却費	24,298	24,924	24,873	26,026	26,169
	その他医業費用	2,235	2,265	3,144	4,258	3,563
	医業外費用 F	63,033	61,810	56,500	58,264	58,869
	支払利息	34,497	32,413	30,209	27,937	25,676
	その他医業外費用	28,536	29,397	26,291	30,327	33,193
	特別損失 G	0	817	2,648	0	0
	費用計 (E+F+G)=H	1,193,638	1,198,452	1,170,816	1,258,820	1,316,622
純費用計 (H-G-Z)=S	1,097,868	1,143,325	1,167,973	1,252,438	1,290,007	
医業収支 (A-E)=I	252,272	245,800	163,307	204,989	218,349	
経常収支 (A+B-E-F)=J	173,590	143,036	259,165	229,673	231,846	
総収支 (D-H)=K	173,590	143,477	256,517	229,673	231,846	
医業収支比率 (A/E)=Q	77.7%	78.4%	85.3%	82.9%	82.6%	
純医業収支 (R-S)=T	209,066	240,008	208,055	236,137	230,655	
純医業収支比率 (R/S)=U	81.0%	79.0%	82.2%	81.1%	82.1%	
繰入金対医業収支比率 (Y/A)	54.5%	49.1%	49.3%	47.4%	47.1%	
繰入金対経常収支比率 (Y/(A+B))	35.0%	32.6%	32.7%	31.7%	31.6%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	80.5%	79.4%	76.3%	75.5%	74.6%	
材料比率 (/A)=W	18.8%	19.8%	21.4%	24.1%	25.1%	
経費比率 (/A)=X	15.5%	19.3%	16.6%	17.3%	15.9%	

退職給与金 Z	95,770	54,310	195	6,382	26,615
---------	--------	--------	-----	-------	--------

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。

純医業収支比率(U)は、一般会計繰入金や退職給与金など病院事業に直接関わらない又、年度間で変動が多く特殊要因となるや費用をそれぞれ総収益、総費用から除いた収支比率として、経営指標の一つとして考えているものです。

$$(算式) \quad \text{純医業収支比率} = \frac{(\text{総収益} - \text{一般会計繰入金} - \text{特別利益})}{(\text{総費用} - \text{退職給与金} - \text{特別損失})} \times 100$$

給与比率(V)は、給与費から年度間で変動が多く特殊要因となる退職給与金を控除した額を医業収益で除いたものです。

一般会計繰入金(Y)は、救急医療の確保に要する経費及び高度・特殊医療に要する経費など、その性質上経営に伴う収入をもつて充てることが適当でない経費や性質上能率的な経営を行っても収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費を一般会計が総務省の定める繰出基準を基本に負担するものです。

(根拠法令等：地方公営企業法第17条の2、地方公営企業繰出金について(総務省通知))

主要経営指標

精神科医療センターの決算(15年度～19年度)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	50床	50床	50床	50床	50床
新入院患者数(人)	501	481	525	451	462
延入院患者数(人)	17,597	17,775	17,894	17,700	17,628
新規外来患者数(人)	724	643	716	692	737
延外来患者数(人)	37,336	37,173	37,812	38,082	38,070
入院単価(円)	29,854	29,376	30,438	31,754	32,178
外来単価(円)	9,311	9,727	10,473	11,185	12,132
稼動病床利用率(%)	96.2%	97.4%	98.0%	97.0%	96.3%
平均在院日数(日)	35.1	36.7	34.2	39.2	38.0
手術件数(件)	0	0	0	0	0
職員数(各年度4月1日現在)	77	82	81	82	87
医師	8	12	12	13	14
看護師	46	47	45	45	48
(看護師の平均年齢)	37歳	37歳	39歳	40歳	40歳
その他	23	23	24	24	25

平成18年度 類似病院との決算の比較

病院名:精神科医療センター

(単位:千円)

区 分		18年度	18年度	差引 (千葉 - 山梨)	18年度	差引 (千葉 - 神奈川)
		50床 精神科医療センター	230床 山梨県北病院		稼働 381床 神奈川県芹香病院	
収益	医業収益 A	995,567	1,742,859	747,292	2,735,499	1,739,932
	入院収益	562,058	1,174,593	612,535	1,657,507	1,095,449
	外来収益	425,940	521,526	95,586	488,298	62,358
	その他医業収益	7,569	46,740	39,171	589,694	582,125
	医業外収益 B	492,926	718,806	225,880	1,403,181	910,255
	一般会計繰入金 Y	472,192	628,758	156,566	1,296,247	824,055
	その他医業外収益	20,734	90,048	69,314	106,934	86,200
	特別利益 C	0	0	0	0	0
収益 計 (A+B+C)=D		1,488,493	2,461,665	973,172	4,138,680	2,650,187
純収益 計 (D-Y-C)=R		1,016,301	1,832,907	816,606	2,842,433	1,826,132
費用	医業費用 E	1,200,556	2,341,904	1,141,348	4,104,286	2,903,730
	給与費	758,048	1,643,315	885,267	3,121,230	2,363,182
	材料費	239,630	327,681	88,051	471,597	231,967
	経費	172,594	200,125	27,531	449,765	277,171
	減価償却費	26,026	163,576	137,550	56,795	30,769
	その他医業費用	4,258	7,207	2,949	4,899	641
	医業外費用 F	58,264	164,036	105,772	47,642	10,622
	支払利息	27,937	134,166	106,229	221	27,716
	その他医業外費用	30,327	29,870	457	47,421	17,094
	特別損失 G	0	3,321	3,321	36,667	36,667
費用 計 (E+F+G) = H		1,258,820	2,509,261	1,250,441	4,188,595	2,929,775
純費用 計 (H-G-Z)=S		1,252,438	2,272,693	1,020,255	4,151,928	2,899,490
医業収支 (A-E) = I		204,989	599,045	394,056	1,368,787	1,163,798
経常収支 (A+B-E-F) = J		229,673	44,275	273,948	13,248	242,921
総収支 (D-H) = K		229,673	47,596	277,269	49,915	279,588
医業収支比率 (A/E) = Q		82.9%	74.4%	8.5%	66.6%	16.3%
純医業収支 (R-S) = T		236,137	439,786	203,649	1,309,495	1,073,358
純医業収支比率 (R/S)=U		81.1%	80.6%	0.5%	68.5%	12.6%
繰入金対医業収支比率 (Y/A)		47.4%	36.1%	11.3%	47.4%	0.0%
繰入金対経常収支比率 (Y/(A+B))		31.7%	25.5%	6.2%	31.3%	0.4%
給与比率 ((-Z)/A) = V		75.5%	80.9%	-5.4%	114.1%	-38.6%
材料比率 (/A) = W		24.1%	18.8%	5.3%	17.2%	6.9%
経費比率 (/A) = X		17.3%	11.5%	5.8%	16.4%	0.9%
退職給与金 Z		6,382	233,247		0	

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。
 類似病院の数値は、総務省の平成18年度地方公営企業年鑑の病院事業の個表から引用

主要経営指標

精神科医療センターと類似病院との決算比較(18年度)

	千葉県 精神科医療センター 50床	山梨県北病院 230床	神奈川県芹香病院 稼働381床
新入院患者数(人)	451	736	676
延入院患者数(人)	17,700	71,521	112,296
新規外来患者数(人)	692		
延外来患者数(人)	38,082	56,544	42,189
入院単価(円)	31,754	16,423	14,760
外来単価(円)	11,185	9,223	11,574
稼働病床利用率(%)	97.0	85.2	80.8
平均在院日数(日)	39.2	96.0	163.3
手術件数(件)	0		
職員数(人)	82	156	299
医師	13	11	18
看護師	45	104	197
(看護師の平均年齢)	40歳	46歳	46歳
その他	24	41	84

< 参考:年間取扱患者1人当たり医業費用(18年度) >

	千葉県 精神科医療センター	山梨県北病院	神奈川県芹香病院
年間取扱患者数(人)	55,782	128,065	154,485
患者1人当たり医業費用(円)	21,408	16,466	26,568
患者1人当たり給与費(円)	13,475	11,011	20,204
患者1人当たり材料費(円)	4,296	2,559	3,053
患者1人当たり経費(円)	3,094	1,563	2,911

医業費用及び給与費から退職給与金は控除してあります。

経営評価

1 全体的評価

当センターと同様に入院・外来とも精神科のみの診療を行っている山梨県立北病院、神奈川県荻香病院と18年度の決算を比較すると、当センターの医業収支比率は、山梨県立北病院を8.5ポイント(ただし、退職給与金を医業費用から控除した場合0.7ポイント)、神奈川県荻香病院を16.3ポイント上回っています。

この主な理由は、次のことが考えられます。

(1) 病床数に比べ入院収益が高い。

これは、当センターの1人1日当たり入院単価が他の病院の約2倍ということがその要因と考えられます。

当センターは、入院の大部分を措置入院、医療保護入院等の「非自発的入院」で占めており、入院の85%以上が精神科入院料の中で最高額の精神科救急入院料の適用であり、また在院日数が短く、病床利用率も高いことによるものと考えられます。

<精神科入院料(平成20年度)>

入院料		点数
精神病棟入院基本料 (入院期間に応じ加算)		658点～1240点 5点～459点
精神科急性期治療病棟 入院料1	30日以内	1900点
	31日以上	1600点
精神科急性期治療病棟 入院料2	30日以内	1800点
	31日以上	1500点
精神科救急入院料	30日以内	3431点
	31日以上	3031点

(2) 医業費用のうち給与比率が相対的に低い。

当センターは、病床数に比べ看護師数は多いが、平均年齢が低いため平均給与も低く、また職員1人当たりの医業収益が高いことから、給与比率は相対的に低くなっているものと考えられます。

<職員1人当たり医業収益(18年度)> (単位:千円)

	千葉	山梨	神奈川
1人当たり医業収益	12,141	11,172	9,149

2 18年度決算までの評価と特殊要因等

(1) 医業収益の増加とともに、収支も改善しつつある。

当センターは、入院・外来とも受入限界に近い状況にあり、入院患者数は横這いで推移しており、また外来患者数は微増という状況ですが、入院単価・外来単価の伸びにより医業収益は増加しています。

費用においては、薬品費を中心とした材料費が増加していますが、外来収益の増加として反映しているものと考えています。

(2) 17年度は医業収支が大きく改善している。

17年度の医業収支比率は85.3%で、前年度と比較し7ポイント上回った。

これは、入院・外来とも患者数の増加と単価の伸びにより医業収益が増加した一方、費用においては前年度までと比べ退職給与金が大きく減少したことがその要因と考えられます。

3 19年度決算の評価

(1) 19年度決算見込の総収支は231,846千円で前年度より若干改善した。

19年度は、施設改修工事による病室の一部使用停止の影響が懸念されたが、単価の伸びにより入院収益は前年度を若干上回り、また外来収益も増加し、医業収益は前年度を43,837千円上回り、収益合計では59,975千円増加した。

一方、費用は給与費の増加及び材料費の増加等により前年度に比べ57,802千円の増加となり、その結果、総収支は前年度より2,173千円増加した。

(2) 入院単価、外来単価が増加した要因は、次のとおりです。

入院単価は、前年度と比べ424円増加したが、これは精神科救急入院料の算定割合が89.6%となり、前年度より4.1ポイント増加したことによるものと考えられます。

また、外来単価は、前年度と比べ947円増加したが、これは外来の診療報酬のうち投薬料が前年度より約750円増加しており、これが主な要因と考えられます。

(3) 給与費43,966千円の増加は、職員増員と退職給与金の増加による。

医師1名、精神保健相談員1名、看護師3名の計5名増員であり、また、退職給与金は前年度より20,233千円増加している。

(4) 材料費21,421千円の増加は薬品費の増加による。

材料費の約9割は薬品費で占めており、薬品費が前年度と比べ17,453千円増加した。しかし、診療報酬の算定では投薬料が約27,000千円増加しており、薬品費の増加が医業収益の増加に反映しているものと考えられます。

経営の課題

1 増加傾向にある精神科救急に対応できる受入体制の強化

当センターの現有施設では、患者受入は限界に近い状況となっており、本県の精神科救急医療システムの中核的医療施設としての役割・機能を果たす上で施設整備の充実が大きな課題となっています。

そのため、県立病院将来構想の見直しを踏まえ、施設整備計画を策定することとしたい。

2 施設老朽化等への対応

18年度に実施した機械設備老朽度調査の結果、各種設備は早急に全面改修を必要とする状況にあり、空調設備については病棟と外来部門等の改修工事に着手していますが、給排水設備については、改修費用が高額となり、また長期にわたる施設の部分使用停止が余儀なくされるため、当面は個別に応急補修等に対応せざるを得ないものと考えています。

施設の老朽化、狭隘化への抜本的な対策は、県立病院将来構想の見直しを踏まえ、検討することとしたい。

3 適切な予算執行管理による健全経営

現有施設の規模から患者の受入増による医業収益の増収は難しい状況にある当センターにとって、適切な予算執行管理と費用の節減が重要と考えています。

そのため、職員の共通認識のもとに各種費用の節減を図り、無駄のない予算執行に努め、健全な経営を目指してまいりたい。

千葉県こども病院

平成15～19年度 決算

病院名:こども病院

(単位:千円)

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
		203床 決算	203床 決算	203床 決算	203床 決算	203床 決算見込
収益	医業収益 A	4,391,596	4,567,994	4,693,068	4,863,523	4,476,878
	入院収益	3,178,275	3,367,462	3,464,107	3,700,126	3,341,006
	外来収益	1,188,752	1,173,701	1,205,196	1,139,003	1,114,187
	その他医業収益	24,569	26,831	23,765	24,394	21,685
	医業外収益 B	1,914,971	1,628,974	1,832,709	1,929,462	1,844,757
	一般会計繰入金 Y	1,897,075	1,609,898	1,811,046	1,811,658	1,822,404
	その他医業外収益	17,896	19,076	21,663	117,804	22,353
	特別利益 C		182			
	収益計 (A+B+C)=D	6,306,567	6,197,150	6,525,777	6,792,985	6,321,635
	純収益計 (D-Y-C)=R	4,409,492	4,587,070	4,714,731	4,981,327	4,499,231
費用	医業費用 E	6,096,574	6,067,475	5,954,390	5,937,719	5,921,952
	給与費	3,125,485	3,115,034	3,101,764	3,206,700	3,363,502
	材料費	1,672,267	1,666,422	1,617,718	1,461,550	1,368,132
	経費	812,055	790,335	865,460	842,404	864,387
	減価償却費	465,846	473,566	346,110	397,725	298,267
	その他医業費用	20,921	22,118	23,338	29,340	27,664
	医業外費用 F	356,393	347,907	325,151	601,564	327,788
	支払利息	189,282	178,232	168,278	159,359	151,132
	その他医業外費用	167,111	169,675	156,873	442,205	176,656
	特別損失 G	0	22,057	152	0	0
費用計 (E+F+G)=H	6,452,967	6,437,439	6,279,693	6,539,283	6,249,740	
純費用計 (H-G-Z)=S	6,349,125	6,330,854	6,195,322	6,472,611	6,154,195	
医業収支 (A-E)=I	1,704,978	1,499,481	1,261,322	1,074,196	1,445,074	
經常収支 (A+B-E-F)=J	146,400	218,414	246,236	253,702	71,895	
總収支 (D-H)=K	146,400	240,289	246,084	253,702	71,895	
医業収支比率 (A/E)=Q	72.0%	75.3%	78.8%	81.9%	75.6%	
純医業収支 (R-S)=T	1,939,633	1,743,784	1,480,591	1,491,284	1,654,964	
純医業収支比率 (R/S)=U	69.5%	72.5%	76.1%	77.0%	73.1%	
繰入金対医業収支比率 (Y/A)	43.2%	35.2%	38.6%	37.2%	40.7%	
繰入金対經常収支比率 (Y/(A+B))	30.1%	26.0%	27.8%	26.7%	28.8%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	68.8%	66.3%	64.3%	64.6%	73.0%	
材料比率 (/A)=W	38.1%	36.5%	34.5%	30.1%	30.6%	
経費比率 (/A)=X	18.5%	17.3%	18.4%	17.3%	19.3%	

退職給与金 Z	103,842	84,528	84,219	66,672	95,545
---------	---------	--------	--------	--------	--------

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。

純医業収支比率(U)は、一般会計繰入金や退職給与金など病院事業に直接関わらない又、年度間で変動が多く特殊要因となるや費用をそれぞれ総収益、総費用から除いた収支比率として、経営指標の一つとして考えているものです。

$$(算式) \quad \text{純医業収支比率} = \frac{(\text{総収益} - \text{一般会計繰入金} - \text{特別利益})}{(\text{総費用} - \text{退職給与金} - \text{特別損失})} \times 100$$

給与比率(V)は、給与費から年度間で変動が多く特殊要因となる退職給与金を控除した額を医業収益で除いたものです。

一般会計繰入金(Y)は、救急医療の確保に要する経費及び高度・特殊医療に要する経費など、その性質上経営に伴う収入をもつて充てることが適当でない経費や性質上能率的な経営を行っても収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費を一般会計が総務省の定める繰出基準を基本に負担するものです。

(根拠法令等:地方公営企業法第17条の2、地方公営企業繰出金について(総務省通知))

主要経営指標

こども病院の決算(15年度～19年度)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	203床	203床	203床	203床	203床
新入院患者数(人)	3,687	3,575	3,765	3,831	3,472
延入院患者数(人)	62,866	61,107	60,269	60,086	54,771
新規外来患者数(人)	4,650	4,493	4,916	5,228	4,781
延外来患者数(人)	86,267	80,462	78,828	77,181	73,711
入院単価(円)	50,556	55,107	57,477	61,581	61,000
外来単価(円)	13,779	14,587	15,289	14,758	15,116
稼働病床利用率(%)	84.6%	82.5%	81.3%	81.1%	73.7%
平均在院日数(日)	16.0	16.1	15.1	14.7	14.7
手術件数(件)	1,968	1,982	1,970	1,921	1,586
職員数	338	332	333	348	363
医師	40	39	40	43	40
看護師	241	238	239	248	260
(看護師の平均年齢)	32.0	32.0	32.0	33.0	32.1
その他	57	55	54	57	63

平成18年度 類似病院との決算の比較

病院名: こども病院

(単位:千円)

区 分		18年度	18年度	差引 (こども - 埼玉)	18年度	差引 (こども - 静岡)
		203床 こども病院	300床 埼玉県小児医療センター		200床 静岡県こども病院	
収益	医業収益 A	4,863,523	7,219,268	2,355,745	5,295,966	432,443
	入院収益	3,700,126	4,901,885	1,201,759	3,849,937	149,811
	外来収益	1,139,003	2,122,652	983,649	1,216,377	77,374
	その他医業収益	24,394	194,731	170,337	229,652	205,258
	医業外収益 B	1,929,462	2,307,618	378,156	2,151,148	221,686
	一般会計繰入金 Y	1,811,658	2,265,424	453,766	2,101,123	289,465
	その他医業外収益	117,804	42,194	75,610	50,025	67,779
	特別利益 C			0	286	286
収益計 (A+B+C)=D		6,792,985	9,526,886	2,733,901	7,447,400	654,415
純収益計 (D-Y-C)=R		4,981,327	7,261,462	2,280,135	5,345,991	364,664
費用	医業費用 E	5,937,719	9,102,951	3,165,232	7,805,817	1,868,098
	給与費	3,206,700	4,754,142	1,547,442	4,038,771	832,071
	材料費	1,461,550	2,457,688	996,138	1,915,600	454,050
	経費	842,404	1,292,947	450,543	1,207,376	364,972
	減価償却費	397,725	537,782	140,057	580,934	183,209
	その他医業費用	29,340	60,392	31,052	63,136	33,796
	医業外費用 F	601,564	424,198	177,366	143,138	458,426
	支払利息	159,359	204,744	45,385	109,238	50,121
	その他医業外費用	442,205	219,454	222,751	33,900	408,305
	特別損失 G	0		0		0
費用計 (E+F+G)=H		6,539,283	9,527,149	2,987,866	7,948,955	1,409,672
純費用計 (H-G-Z)=S		6,472,611	9,362,785	2,890,174	7,751,719	1,279,108
医業収支 (A-E)=I		1,074,196	1,883,683	809,487	2,509,851	1,435,655
経常収支 (A+B-E-F)=J		253,702	263	253,965	501,841	755,543
総収支 (D-H)=K		253,702	263	253,965	501,555	755,257
医業収支比率 (A/E)=Q		81.9%	79.3%	2.6%	67.8%	14.1%
純医業収支 (R-S)=T		1,491,284	2,101,323	610,039	2,405,728	914,444
純医業収支比率 (R/S)=U		77.0%	77.6%	-0.6%	69.0%	8.0%
繰入金対医業収支比率 (Y/A)		37.2%	31.4%	5.8%	39.7%	-2.5%
繰入金対経常収支比率 (Y/(A+B))		26.7%	23.8%	2.9%	28.2%	-1.5%
給与比率 ((-Z)/A)=V		64.6%	63.6%	1.0%	72.5%	-7.9%
材料比率 (/A)=W		30.1%	34.0%	-3.9%	36.2%	-6.1%
経費比率 (/A)=X		17.3%	17.9%	-0.6%	22.8%	-5.5%
退職給与金 Z		66,672	164,364	97,692	197,236	130,564

退職給与金 Z は純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。
類似病院の数値は、総務省の平成18年度地方公営企業年鑑の病院事業の個表から引用

主要経営指標

こども病院と類似病院との決算比較(18年度)

	千葉県 こども病院 203床	埼玉県 小児医療センター 300床	静岡県 こども病院 200床
新入院患者数(人)	3,831		
延入院患者数(人)	60,086	89,425	56,210
新規外来患者数(人)	5,228		
延外来患者数(人)	77,181	141,828	69,026
入院単価(円)	61,581	54,759	68,458
外来単価(円)	14,758	14,950	17,606
稼働病床利用率(%)	81.1	81.8	77.0
平均在院日数(日)	14.7	17.2	15.4
手術件数(件)	1,921		
職員数(人)	348	501	453
医師	43	68	58
看護師	248	301	305
(看護師の平均年齢)	(33)	(32)	(34)
その他	57	132	90

経営評価

1 全体的評価

当院を、類似病院である埼玉県小児医療センター、静岡県こども病院と18年度決算で比較すると、当院の医業収支比率は81.9%で、埼玉県小児医療センターを2.6ポイント、静岡県こども病院を14.1ポイント上回っています。

この主な理由としては、次のことが考えられます。

- (1) 医業収益のうち入院収益について1人1日当たりの入院単価で比較してみると、当院の入院単価は61,581円で、埼玉より6,822円高く、逆に静岡より6,877円安くなっています。

これは主に入院管理料や特定治療室管理料の加算の割合の相違によるものと考えられます。

また、診療形態の違いによるところも大きいと思われます。埼玉は内科系に、千葉は外科系に偏った診療が行われており、静岡は、心臓血管外科のアクティビティが極めて高いことが要因と考えられます。

- (2) 医業費用のうち給与比率で埼玉が当院(64.6%)より1ポイント低いのは、当院に比べて1病床当たりの看護師の割合を2割ほど抑えているためと考えられます。
- (3) 同規模の静岡に比べて当院の医業収支比率が大幅に高いのは、医業収益では静岡の方が上回っているにもかかわらず、給与費、材料費、経費等の医業費用について、当院がいずれも大幅に下回っているためです。当院と静岡の医業費用の差は1,868,098千円に達します。

2 18年度決算までの評価と特殊要因

- (1) 医業収益については、外来収益がほぼ横ばいに推移するものの、入院収益が大幅に増加したため着実に増加しています。15年度と比べると医業収益は471,927千円増の4,863,523千円となっています。

特に18年度は診療報酬の改定による入院管理料(3,000点 3,600点)の増加が大きく影響しています。

- (2) 医業費用については、医師、看護師が増加しているため給与費は増加傾向にあります。薬品費、診療材料費等の材料費については共同購入の拡大等により減少しています。

この結果、医業費用については、幅の大小はありますが毎年着実に減少しています。

- (3) 16年度に総収支の赤字が拡大したのは3億円近い一般会計繰入金の減少があったからです。また、18年度の「その他医業外費用」と「その他医業外収益」が突出しているのは、医療事故の賠償金支払(2億8千万円)と保険金収入(1億円)が発生したからです。

3 19年度決算の評価

(1) 19年度決算の総収支は71,895千円の黒字となっていますが、前年度に比べて黒字幅は、181,807千円減少しています。その原因は、医業収益の75%を占める入院収益が359,120千円の大幅な減少となったためです。

主因は、麻酔科医の減少(常勤6人 4人)による手術件数の大幅な減少(1,921件 1,586件)であり、これに伴う入院患者の激減(延入院患者は5,315人の減)です。

手術件数の335件減と平均在院日数14.7日の状況から推測すると、この分だけで延べ4,925人の入院減になります。

(2) 入院患者の減少にもかかわらず給与費が156,802千円増加したのは、看護師の大量採用により看護師が248人から260人に増加(12人増)したことが主な原因です。

看護師を増員させた理由は、最高ランクの小児入院医療管理料1の算定をするために、施設基準である7:1(夜間9:1)看護はもとより、他小児病院との協議から今後の6:1~5:1看護の必要性を先取りした形になっているためです。

(3) 減価償却費は1億円減少していますが、この主な理由は、MRIと電気設備の減価償却額の減少(合計で9千万円減)によるものです。

経営の課題

当院は、全県域を対象に入院を必要とする重症小児患者を積極的に受け入れることを基本にしていますが、特に新生児医療と小児の外科的疾患に対しては、県内の医療資源も少ないことから、特に当院が広く対応できる診療体制を整備、強化して行くことが求められています。

こうした中、現状として次のことが経営上の重要な課題となっています。

1 医業収益と医業費用のバランスのとれた経営

(1) 医業収益の確保・拡大

ア 19年度は麻酔科医の減少により手術件数、入院患者数とも激減し、これが医業収益の大きな減少要因となったことから、手術件数を大幅に増加する必要があります。

麻酔科医の数が18年度水準に戻った今年度は、手術件数の大幅な増加(1,900件台)を目指すことにより、入院患者数の増加を図ります。

イ 手術件数の回復等により入院患者の増加が見込まれるため、今年度から新たに認められた最高ランクの入院管理料(3,600点 4,500点)を最大限に活かし確保することが重要になっています。

このため、施設要件である看護師数に常に注意し、早めの募集等により欠員が生じないようにします。

(2) 材料費・経費の削減努力

薬剤や診療材料については、他の県立病院とともに共同購入の拡大等により費用の低減に努めていますが、様々な業務委託についても、必要性や仕様、契約のあり方等について個々に見直し、全体として費用の削減を図っていきます。

2 将来にわたっての安定した経営基盤の確立

(1) 人材の確保と育成

ア 医師・看護師の確保と育成

県内小児医療の最後の砦としての機能を果たしていくには、小児の各診療科における専門医および小児麻酔の専門家の充実が不可欠ですが、小児専門医(特に外科系)や麻酔科医などは全国的に確保が困難になっています。特に、当院の麻酔科医、新生児科医は県外の大学医局に依存しているため、今後の医師の安定供給・確保は保証されていません。

このため、大学等とのネットワークを強化する一方で、初期・後期を問わず臨床研修医を積極的に受け入れ、当院自ら小児専門医等を育て確保していくための自己努力が欠かせませんが、診療のために定数化されている医師数で、継続的な教育育成を担当することの負担が大きくなっています。

より高度化する小児医療の実践のため、また小児入院医療管理料 1 を算定する施設基準を達成するためにも、看護師数の増加は必定的ですが、人手のかかる小児看護の現場では退職・離職は多く、よりゆとりのある看護師の採用と、事務職員など他職種ができることを行うことで医師・看護師が専門的な仕事に専念できる雇用体制を作ることが必要と考えています。

また、看護配置基準から外れる手術室看護師数の不足（確保）が今後の大きな課題となります。

イ DPC 等に対応する人材の育成

診療報酬の算定は、小児医療においても DPC（包括支払制度）へと移行する方向性が明かです。病院情報システムを活用することで、診療報酬請求の適正化を図るとともに、DPC の早期導入に向けた検討を進める必要があります。しかし診療情報管理士は病院職員ではなく、また DPC の知識に長けた医事課職員がいるわけでもないことから、病院情報管理体制を構築する中で、こうした医事専門業務を先導する職員の育成確保は急務と考えます。

(2) IT 化に伴う業務変革への対応

平成 19 年 12 月にはオーダリングシステムを稼動し、順次拡大して、本年 7 月には、電子カルテ等の運用を開始する予定です。今後はこの病院情報システムを有効に活用して、情報共有による診療の効率化、診療材料・薬品の適時適量供給や保険請求漏れの削減、ペーパーレス化・フィルムレス化によるコスト削減、経営分析の精緻化・迅速化など、多面的な活用を進めます。

また、これを機会に、院内物流部門・機材の滅菌部門を統一することで、特に手術室の効率的な運用による手術件数の増加を見込んでいます。

加えて、院内の IT 化とともに病院情報が集約・共有化される中で、病院にその管理専門職が配備されているわけではないため、セキュリティを含めた情報管理体制の確立が急務となっています。

千葉県循環器病センター

平成15～19年度 決算

病院名:千葉県循環器病センター

(単位:千円)

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
		220床 決算	220床 決算	220床 決算	220床 決算	220床 決算見込
収益	医業収益 A	4,841,758	5,176,667	5,109,611	5,350,166	5,298,048
	入院収益	3,928,940	4,218,567	4,153,508	4,387,731	4,445,701
	外来収益	845,101	874,941	867,999	870,263	762,441
	その他医業収益	67,717	83,159	88,104	92,172	89,906
	医業外収益 B	1,785,839	1,636,786	1,407,326	1,392,576	1,379,827
	一般会計繰入金 Y	1,756,714	1,602,101	1,367,446	1,339,168	1,347,784
	その他医業外収益	29,125	34,685	39,880	53,408	32,043
	特別利益 C	0	0	0	0	0
	収益計 (A+B+C)=D	6,627,597	6,813,453	6,516,937	6,742,742	6,677,875
純収益計 (D-Y-C)=R	4,870,883	5,211,352	5,149,491	5,403,574	5,330,091	
費用	医業費用 E	7,279,519	6,914,095	6,619,990	6,822,515	6,847,969
	給与費	3,183,671	3,181,885	3,018,495	3,084,921	3,234,098
	材料費	1,920,775	1,826,773	1,782,023	1,820,359	1,719,732
	経費	899,702	975,632	1,043,851	1,110,056	1,046,396
	減価償却費	1,256,669	912,589	758,136	781,862	801,192
	その他医業費用	18,702	17,216	17,485	25,317	46,551
	医業外費用 F	540,936	530,871	533,943	556,659	505,035
	支払利息	351,151	340,202	329,093	324,106	315,313
	その他医業外費用	189,785	190,669	204,850	232,553	189,722
	特別損失 G	0	233,319	14,808	0	0
費用計 (E+F+G)=H	7,820,455	7,678,285	7,168,741	7,379,174	7,353,004	
純費用計 (H-G-Z)=S	7,630,698	7,178,213	7,048,806	7,261,241	7,106,957	
医業収支 (A-E)=I	2,437,761	1,737,428	1,510,379	1,472,349	1,549,921	
経常収支 (A+B-E-F)=J	1,192,858	631,513	636,996	636,432	675,129	
総収支 (D-H)=K	1,192,858	864,832	651,804	636,432	675,129	
医業収支比率 (A/E)=Q	66.5%	74.9%	77.2%	78.4%	77.4%	
純医業収支 (R-S)=T	2,759,815	1,966,861	1,899,315	1,857,667	1,776,866	
純医業収支比率 (R/S)=U	63.8%	72.6%	73.1%	74.4%	75.0%	
繰入金対医業収益比率 (Y/A)	36.3%	30.9%	26.8%	25.0%	25.4%	
繰入金対経常収益比率 (Y/(A+B))	26.5%	23.5%	21.0%	19.9%	20.2%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	61.8%	56.3%	57.0%	55.5%	56.4%	
材料比率 (/A)=W	39.7%	35.3%	34.9%	34.0%	32.5%	
経費比率 (/A)=X	18.6%	18.8%	20.4%	20.7%	19.8%	

退職給与金 Z	189,757	266,753	105,127	117,933	246,047
---------	---------	---------	---------	---------	---------

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。

純医業収支比率(U)は、一般会計繰入金や退職給与金など病院事業に直接関わらない又、年度間で変動が多く特殊要因となる収益や費用をそれぞれ総収益、総費用から除いた収支比率として、経営指標の一つとして考えているものです。

$$(\text{算式}) \quad \text{純医業収支比率} = \frac{(\text{総収益} - \text{一般会計繰入金} - \text{特別利益})}{(\text{総費用} - \text{退職給与金} - \text{特別損失})} \times 100$$

給与比率(V)は、給与費から年度間で変動が多く特殊要因となる退職給与金を控除した額を医業収益で除したものです。

一般会計繰入金(Y)は、救急医療の確保に要する経費及び高度・特殊医療に要する経費など、その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費や性質上能率的な経営を行っても収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費を一般会計が総務省の定める繰出基準を基本に負担するものです。

(根拠法令等:地方公営企業法第17条の2、地方公営企業繰出金について(総務省通知))

主要経営指標

千葉県循環器病センターの決算(15年度～19年度)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	220床	220床	220床	220床	220床
新入院患者数(人)	4,197	4,186	4,257	4,462	4,235
延入院患者数(人)	64,753	65,492	65,223	65,099	65,108
新規外来患者数(人)	13,407	14,261	13,198	11,622	10,104
延外来患者数(人)	125,646	129,106	124,687	118,817	98,682
入院単価(円)	60,676	64,413	63,682	67,401	68,282
外来単価(円)	6,726	6,777	6,961	7,324	7,726
稼動病床利用率(%)	80.4%	81.6%	81.2%	81.1%	80.9%
平均在院日数(日)	15.5	15.6	15.3	14.6	15.4
手術件数(件)	987	1,012	945	905	815
職員数	337	326	325	338	344
医師	49	49	51	48	45
看護師	216	211	212	226	233
(看護師の平均年齢)	34	34	34	35	33
その他	72	66	62	64	66

平成18年度 類似病院との決算の比較

病院名: 千葉県循環器病センター

(単位:千円)

区分	18年度		差引 (-)	18年度		
	220床 千葉県循環器病センター	240床 群馬県心臓血管センター		350床 姫路循環器病センター	差引 (-)	
収益	医業収益 A	5,350,166	5,947,613	90%	9,387,312	57%
	入院収益	4,387,731	5,059,630	87%	7,230,727	61%
	外来収益	870,263	715,352	122%	1,785,770	49%
	その他医業収益	92,172	172,631	53%	370,815	25%
	医業外収益 B	1,392,576	805,768	173%	898,591	155%
	一般会計繰入金 Y	1,339,168	589,086	227%	261,431	512%
	その他医業外収益	53,408	216,682	25%	637,160	8%
	特別利益 C	0	0	0%	1,034	0%
	収益計 (A+B+C)=D	6,742,742	6,753,381	100%	10,286,937	66%
	純収益計 (D-Y-C)=R	5,403,574	6,164,295	88%	10,024,472	54%
費用	医業費用 E	6,822,515	7,341,844	93%	9,974,426	68%
	給与費	3,084,921	2,425,512	127%	4,395,083	70%
	材料費	1,820,359	2,548,817	71%	4,012,570	45%
	経費	1,110,056	1,282,935	87%	1,188,173	93%
	減価償却費	781,862	1,041,811	75%	312,699	250%
	その他医業費用	25,317	42,769	59%	65,901	38%
	医業外費用 F	556,659	315,834	176%	377,102	148%
	支払利息	324,106	226,898	143%	109,097	297%
	その他医業外費用	232,553	88,936	261%	268,005	87%
	特別損失 G	0	0	0%	2,467	0%
費用計 (E+F+G)=H	7,379,174	7,657,678	96%	10,353,995	71%	
純費用計 (H-G-Z)=S	7,261,241	7,515,454	97%	10,158,100	71%	
医業収支 (A-E)=I	1,472,349	1,394,231	78,118	587,114	885,235	
経常収支 (A+B-E-F)=J	636,432	904,297	267,865	65,625	570,807	
総収支 (D-H)=K	636,432	904,297	267,865	67,058	569,374	
医業収支比率 (A/E)=Q	78.4%	81.0%	-2.6%	94.1%	-15.7%	
純医業収支 (R-S)=T	1,857,667	1,351,159	506,508	133,628	1,724,039	
純医業収支比率 (R/S)=U	74.4%	82.0%	-7.6%	98.7%	-24.3%	
繰入金対医業収益比率 (Y/A)	25.0%	9.9%	15.1%	2.8%	22.2%	
繰入金対経常収益比率 (Y/(A+B))	19.9%	8.7%	11.2%	2.5%	17.4%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	55.5%	38.4%	17.1%	44.8%	10.7%	
材料比率 (/A)=W	34.0%	42.9%	-8.9%	42.7%	-8.7%	
経費比率 (/A)=X	20.7%	21.6%	-0.9%	12.7%	8.0%	
退職給与金 Z	117,933	142,224		193,428		

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。
類似病院の数値は、総務省の平成18年度地方公営企業年鑑の病院事業の個表から引用

主要経営指標

千葉県循環器センターと類似病院との決算比較(18年度)

	千葉県 循環器病センター 220床	群馬県 心臓血管センター 240床	姫路 循環器病センター 350床
新入院患者数(人)	4,462	4,120	5,397
延入院患者数(人)	65,099	66,069	92,153
新規外来患者数(人)	11,622	6,308	7,776
延外来患者数(人)	118,817	90,934	88,023
入院単価(円)	67,401	76,581	78,464
外来単価(円)	7,324	7,867	20,288
稼働病床利用率(%)	81.1	75.4	72.1
平均在院日数(日)	14.6	16.0	16.1
手術件数(件)	905	638	409
職員数(人)	338	274	436
医師	48	30	47
看護師	226	161	277
(看護師の平均年齢)	35	35	36
(看護施設基準)	7対1	10対1	7対1
その他	64	83	112

経営評価

1. 全体的評価(類似病院との比較)

地方公営企業年鑑から循環器に特化した200～350床の病院を選定し、類似病院と思われる群馬県心臓血管センター「以下:群馬心臓血管」及び姫路循環器病センター「以下:姫路循環器」と比較しました。当センターの18年度医業収支比率は78.4%で、群馬心臓血管を2.6ポイント、姫路循環器を15.7ポイント下回っております。この主な理由は次のことが考えられます。

入院収益の比較(100床換算)

当センター	1,994,423 千円
群馬県心臓血管センター	2,108,179 千円 (当院比 +113,756 円 106%)
姫路循環器病センター	2,065,922 千円 (当院比 +71,499 円 104%)

入院収益においては、新規・延患者数とも類似2病院を上回る実績(100床換算)を残しています。患者1人/1日当り平均単価に約10,000円の差がありますが、当センターの循環器系の平均単価との差がないことから、平均単価の低い地域医療部門が平均単価を下げているものと思われます。

外来収益の比較(100床換算)

当センター	395,574 千円
群馬県心臓血管センター	298,063 千円 (当院比 97,511 円 75%)
姫路循環器病センター	510,220 千円 (当院比 +114,646 円 129%)

外来収益においては、入院と同じく新規・延患者数とも類似2病院を上回る実績を残しています。当センターでは、2病院で行なっていない「小児科・眼科・皮膚科・歯科」等の一般地域医療も行なっており、特に眼科は外来患者数が多く、このことが、延外来患者数が多い要因と思われます。平均単価については、「姫路循環器」が非常に高く、院外処方率が低いことに加え、CTを2台、RI(ガンマカメラシステム)を4台保有している「姫路循環器」の外来放射線収入(患者1人/1日当りの収入単価)が他の2病院に比して高いことが要因ではないかと思われます。

給与費の比較(100床換算)

当センター	1,402,237 千円
群馬県心臓血管センター	1,010,630 千円(当院比 391,607 千円 72%)
姫路循環器病センター	1,255,738 千円(当院比 146,499 千円 90%)

給与費については、当センターが類似2病院に比して最も高い状態です。これは、医師数及び看護師数が他2病院に比して多いことが要因です。

当センターは220床の病院で救急医療と地域医療も行なっており、医師が複数の診療科に分散していることが医師数の多さにつながっています。

看護師数については、7対1看護体制に加えICU等の特定集中治療室、手術室、外来部門で規模のメリットがないことが看護師の多さにつながっております。

なお、看護師の平均年齢及び経験年数の比較ではほとんど差はありません。

医師数(常勤正職員)100床換算

当センター	22人		
群馬県心臓血管センター	13人	(当院比	9人 59%)
姫路循環器病センター	13人	(当院比	9人 59%)

看護師数(常勤正職員)100床換算

当センター	103人		
群馬県心臓血管センター	67人	(当院比	36人 65%)
姫路循環器病センター	79人	(当院比	24人 77%)

経費の比較(100床換算)

当センター	504,571千円		
群馬県心臓血管センター	534,556千円	(当院比	+29,985千円 105%)
姫路循環器病センター	339,478千円	(当院比	165,093千円 67%)

経費については、「姫路循環器」が最も少ない実績(100床換算)となりました。ただし、「姫路循環器」の経費詳細が不明のため、金額の比較的大きい「光熱水費・燃料費・委託料」等について、詳細な検討をすることが必要と考えております。

2. 18年度決算までの評価と特殊要因等

当センターは開設当初、高度医療と地域医療を行なう330床のセンターとして計画されました。現在は両方の機能を220床の病院に求められていることから、中途半端な形態とならざるを得ず、経営的には収支悪化の原因の一つと考えられますが、開設当初から比して医業収支は大きく改善されています。

医業収支比率は平成10年度決算が55.9%、15年度決算が66.5%、18年度決算が78.4%となりました。15年度から17年度にかけて医業収支が大きく改善(10.7ポイント上昇)した理由は医業収益の増加とセンター開設当初に購入した医療機器類の減価償却費の大半が償却を終了したことが要因です。

一方で一般会計繰入金は15年度の1,756,714千円から18年度の1,339,168千円まで毎年減少しています。

なお、17年度にMRI2号機の導入、18年7月にSCUを2床増床、19年1月からは7対1看護施設基準を取得するなど、医業収益の増加にむけて努力した結果、15年度から18年度まで毎年、純医業収支比率「(経常収益 - 一般会計繰入金) / (経常費用 - 退職給与金)」が改善されています。

3 19年度決算の評価

収益の評価

内科医師減(6名 3名)の影響により内科の入院収益は減少しましたが、「7対1看護基準」と「脳卒中ケアユニット6床新設」により、19年度決算では入院収益が18年度比で57,970千円増加しました。内科延入院患者数は18年度比で1,880人減少しましたが、循環器科、神経内科など高度医療5診療科ですべて延患者数が増加となり、結果として9人増となりました。

外来は内科医師減が影響し、延患者数が20,145人減少し、外来収益も著しく減少(107,822千円)しました。

その結果、医業収益は5,298,048千円で前年度に比べ52,118千円の減少となりました。

費用の評価

給与費増149,177千円の理由は、7対1看護基準取得等に伴う看護師数の増加と退職給与金の増であります。退職給与金の増は128,114千円でしたが、材料費と経費については、それぞれ18年度比で大幅に減少しました。

材料費 100,627千円 経費 63,660千円

しかし、医業費用の総額は6,847,969千円で給与費(退職給与金)、固定資産除却費等の増が響き、18年度比で25,454千円の増加となりました。

収支の評価

19年度医業収支は1,549,921千円の赤字で、18年度比で77,572千円となりました。

経常収支は675,129千円で、同じく38,697千円となっております。

赤字の増加は一時的に生じた退職金の増加によるものであり、経営指標として重要視している純医業収支比率では、19年度は75%で最高の成績でありました。15年度が63.8%であり17年度が73.1%でしたので、過去5年間毎年経営状態が好転し続けていることとなります。

なお、当センターは平成10年2月に開院しておりますが、病院開設に約220億円を投じております。過大な投資によるこれら固定資産の減価償却費総額が現在でも年間で8億円となり経営を圧迫しています。(対医業収益：減価償却費率 H19年度決算15.1%)

また、センター開設資金の全額が企業債で賄われたこともあり、センターが負担する毎年度の支払利息が3億円以上となっております。

もしこれらの費用が、現在の半額程度であれば5億5千万円の費用減となり、経常収支は19年度決算ベースで1億25百万円と、黒字への転換が十分可能な収支となります。

経営の課題

当センターは循環器病に対する高度医療と救急医療及び内科・外科等の地域医療の提供が求められています。

- 1 地域医療については、20年度には内科医師が2名となり今後もさらに減少する可能性があります。これまでパート医で行なってきた整形外科も19年度末で休診となりました。長生夷隅地区における地域医療の体制が決して良いとは言えない状況のなか、縮小を続ける「地域一般医療」について、今後どうすべきかが大きな課題としてあります。
- 2 高度医療については全県を対象とした循環器医療と複数医療圏をカバーする急性期医療を担うこととしていますが、心臓・脳循環器専門医療に特化した場合、医療対象人口が少なく、交通アクセスの悪い地域に立地している当センターを、維持しうるだけの患者を呼び込めるかが鍵となっております。

千葉県立東金病院

平成15～19年度 決算

病院名: 東金病院

(単位:千円)

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
		191床 決算	191床 決算	110床 決算	70床 決算	80床 決算見込
収益	医業収益 A	2,608,213	2,334,161	1,922,242	1,636,647	1,673,087
	入院収益	1,625,027	1,389,843	1,047,640	879,303	903,867
	外来収益	958,734	922,773	857,283	743,468	756,808
	その他医業収益	24,452	21,545	17,319	13,876	12,412
	医業外収益 B	942,959	785,649	550,183	510,773	494,397
	一般会計繰入金 Y	812,287	768,567	524,607	499,570	476,261
	その他医業外収益	130,672	17,082	25,576	11,203	18,136
	特別利益 C		2,416			
	収益計 (A+B+C)=D	3,551,172	3,122,226	2,472,425	2,147,420	2,167,484
純収益計 (D-Y-C)=R	2,738,885	2,351,243	1,947,818	1,647,850	1,691,223	
費用	医業費用 E	3,765,231	3,399,230	3,039,138	2,728,408	2,471,019
	給与費	2,171,351	1,896,760	1,608,134	1,410,252	1,287,859
	材料費	665,615	573,713	478,794	412,205	411,498
	経費	729,258	749,546	770,901	737,369	609,466
	減価償却費	192,487	172,952	175,109	163,229	154,443
	その他医業費用	6,520	6,259	6,200	5,353	7,753
	医業外費用 F	262,672	134,244	142,134	104,254	107,535
	支払利息	47,722	39,514	32,828	25,942	22,373
	その他医業外費用	214,950	94,730	109,306	78,312	85,162
	特別損失 G		47,651	17,146	0	0
費用計 (E+F+G)=H	4,027,903	3,581,125	3,198,418	2,832,662	2,578,554	
純費用計 (H-G-Z)=S	3,709,888	3,363,071	3,103,357	2,749,684	2,509,226	
医業収支 (A-E)=I	1,157,018	1,065,069	1,116,896	1,091,761	797,932	
經常収支 (A+B-E-F)=J	476,731	413,664	708,847	685,242	411,070	
總収支 (D-H)=K	476,731	458,899	725,993	685,242	411,070	
医業収支比率 (A/E)=Q	69.3%	68.7%	63.2%	60.0%	67.7%	
純医業収支 (R-S)=T	971,003	1,011,828	1,155,539	1,101,834	818,003	
純医業収支比率 (R/S)=U	73.8%	69.9%	62.8%	59.9%	67.4%	
繰入金対医業収支比率 (Y/A)	31.1%	32.9%	27.3%	30.5%	28.5%	
繰入金対經常収支比率 (Y/(A+B))	22.9%	24.6%	21.2%	23.3%	22.0%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	71.1%	74.0%	79.6%	81.1%	72.8%	
材料比率 (/A)=W	25.5%	24.6%	24.9%	25.2%	24.6%	
経費比率 (/A)=X	28.0%	32.1%	40.1%	45.1%	36.4%	

退職給与金 Z	318,015	170,403	77,915	82,978	69,328
---------	---------	---------	--------	--------	--------

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。

純医業収支比率(U)は、一般会計繰入金や退職給与金など病院事業に直接関わらない又、年度間で変動が多く特殊要因となるや費用をそれぞれ総収益、総費用から除いた収支比率として、経営指標の一つとして考えているものです。

$$(算式) \quad \text{純医業収支比率} = \frac{(\text{総収益} - \text{一般会計繰入金} - \text{特別利益})}{(\text{総費用} - \text{退職給与金} - \text{特別損失})} \times 100$$

給与比率(V)は、給与費から年度間で変動が多く特殊要因となる退職給与金を控除した額を医業収益で除いたものです。

一般会計繰入金(Y)は、救急医療の確保に要する経費及び高度・特殊医療に要する経費など、その性質上経営に伴う収入をもつてることが適当でない経費や性質上能率的な経営を行っても収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費を一般会計が総務省の定める繰出基準を基本に負担するものです。

(根拠法令等: 地方公営企業法第17条の2、地方公営企業繰出金について(総務省通知))

主要経営指標

東金病院の決算(15年度～19年度)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	191床	191床	110床	70床	80床
新入院患者数(人)	2,925	2,388	2,128	1,983	1,916
延入院患者数(人)	48,894	43,353	31,677	22,916	24,471
新規外来患者数(人)	12,257	11,081	8,664	7,704	7,094
延外来患者数(人)	97,218	84,660	69,216	58,126	61,462
入院単価(円)	33,236	32,059	33,073	38,371	36,936
外来単価(円)	9,862	10,900	12,386	12,791	12,313
稼動病床利用率(%)					
191床	69.9%	62.2%	45.4%	32.9%	35.1%
179床	74.6%	66.4%	48.5%	35.1%	37.5%
運用病床数			68.0%	67.2%	88.2%
平均在院日数(日)	15.1	16.5	14.0	10.9	12.6
手術件数(件)	604	452	426	448	443
職員数	204	189	163	138	140
医師	21	17	14	11	12
看護師	127	119	98	80	81
(看護師の平均年齢)	43.0	43.0	44.0	45.0	43.0
その他	56	53	51	47	47

注) 稼動病床利用率の運用病床数について

- ・平成17年度は、4月から140床、11月からは110床で運用
- ・平成18年度は、4月から110床、11月から70床で運用
- ・平成19年度は、4月から70床、9月から80床で運用

平成18年度 類似病院との決算の比較

病院名: 東金病院

(単位:千円)

区 分		18年度	18年度	差引 (-)	18年度	差引 (-)
		70床 東金病院	100床 大網病院		98床 国保国吉病院	
収益	医業収益 A	1,636,647	1,559,169	77,478	1,522,946	113,701
	入院収益	879,303	960,618	81,315	766,875	112,428
	外来収益	743,468	497,953	245,515	615,984	127,484
	その他医業収益	13,876	100,598	86,722	140,087	126,211
	医業外収益 B	510,773	77,262	433,511	665,683	154,910
	一般会計繰入金 Y	499,570	62,380	437,190	220,384	279,186
	その他医業外収益	11,203	14,882	3,679	445,299	434,096
	特別利益 C	0	0	0	0	0
収益計 (A+B+C)=D		2,147,420	1,636,431	510,989	2,188,629	41,209
純収益計 (D-Y-C)=R		1,647,850	1,574,051	73,799	1,968,245	320,395
費用	医業費用 E	2,728,408	1,816,284	912,124	1,704,969	1,023,439
	給与費	1,410,252	839,506	570,746	901,195	509,057
	材料費	412,205	369,725	42,480	327,324	84,881
	経費	737,369	356,242	381,127	393,862	343,507
	減価償却費	163,229	120,416	42,813	80,822	82,407
	その他医業費用	5,353	130,395	125,042	1,766	3,587
	医業外費用 F	104,254	106,009	1,755	492,508	388,254
	支払利息	25,942	65,195	39,253	1,015	24,927
	その他医業外費用	78,312	40,814	37,498	491,493	413,181
	特別損失 G	0	0	0	0	0
費用計 (E+F+G)=H		2,832,662	1,922,293	910,369	2,197,477	635,185
純費用計 (H-G-Z)=S		2,749,684	1,922,293	827,391	2,197,477	552,207
医業収支 (A-E)=I		1,091,761	257,115	834,646	182,023	909,738
経常収支 (A+B-E-F)=J		685,242	285,862	399,380	8,848	676,394
総収支 (D-H)=K		685,242	285,862	399,380	8,848	676,394
医業収支比率 (A/E)=Q		60.0%	85.8%	-25.8%	89.3%	-29.3%
純医業収支 (R-S)=T		1,101,834	348,242	753,592	229,232	872,602
純医業収支比率 (R/S)=U		59.9%	81.9%	-22.0%	89.6%	-29.7%
繰入金対医業収支比率 (Y/A)		30.5%	4.0%	26.5%	14.5%	16.0%
繰入金対経常収支比率 (Y/(A+B))		23.3%	3.8%	19.5%	10.1%	13.2%
給与比率 ((-Z)/A)=V		81.1%	53.8%	27.3%	59.2%	21.9%
材料比率 (/A)=W		25.2%	23.7%	1.5%	21.5%	3.7%
経費比率 (/A)=X		45.1%	22.8%	22.3%	25.9%	19.2%

退職給与金 Z 82,978

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。
類似病院の数値は、総務省の平成18年度地方公営企業年鑑の病院事業の個表から引用

主要経営指標

東金病院と類似病院との決算比較(18年度)

	東金病院 70床	大網病院 100床	国吉病院 98床
新入院患者数(人)	1,983	1,392	1,279
延入院患者数(人)	22,916	30,035	24,875
新規外来患者数(人)	7,704	8,394	7,710
延外来患者数(人)	58,126	79,164	85,092
入院単価(円)	38,371	31,983	30,829
外来単価(円)	12,791	6,290	7,239
稼働病床利用率(%)	67.2%	84.6	69.5
平均在院日数(日)	10.9	19.4	18.5
手術件数(件)	448	255	237
職員数(人)	138	97	120
医師	11	12	11
看護師	80	59	51
(看護師の平均年齢)	45.0	41.2	40.5
その他	47	26	58

- 注) 1. 類似病院の延入院患者数、延外来患者数については、収益(入院・外来)を診療単価(入院・外来)で除して推計しました。(国吉病院)
 2. 職員数の看護師数には、准看護師も含んでいます。

経営評価

1 全体的評価

類似病院と思われる国保大網病院及び国保国吉病院と比較すると当病院の18年度医業収支比率は、大網病院を22ポイント、国吉病院を約30ポイント下回っています。

この主な理由は、次のことが考えられます。

(1) 医業収益は、類似病院に比べ約7千万円～1億1千万円高い。

これは、入院・外来とも患者数は少ないものの、1人1日当たりの診療単価が高いためです。

その理由としては、

例：平均在院日数が短く、入院料の加算が高い

外来は、投薬、処置、検査、放射線の単価が高いためであると考えられます。

(2) 一方、医業費用は、類似病院に比べ約9億円～10億円高くなっている。

これは、給与比率が高いことと、経費(委託料)が高いためと考えられます。

その理由としては、

例：看護師の平均給与、平均年齢が高く、当院の場合は月額の基本給で約70,000円高くなっている。また、人数も多いと考えられます。

2 18年度決算までの評価と特殊要因等

(1) 16年度以降、新医師臨床研修制度の影響を受け、医師が年々減少したため入院・外来収益は落ち込み、収支の状況が悪化しています。

このため、稼働病床数の縮小を行うとともに、看護師等職員数の見直しを行い、費用の縮減を図ってまいりましたが、収支は改善されませんでした。

(2) 18年度は、17年度に7名いた内科医師が3名になり、内科入院収益で約237,600千円、内科外来収益で96,337千円の減少になっております。

11月から医師数に併せて病棟の再編を行い、職員数の見直し、経費の削減に努め赤字幅は縮小したものの、収支比率は、17年度を下回りました。

3 19年度決算の評価

(1) 19年度決算の総収支は△411,070千円で、前年度の△685,242千円に比べ274,172千円収支状況が改善されました。

これは、医業費用で257,389千円の削減を図ったことが要因で、主な内容は、前年度の職員数の見直し(看護師・准看護師98人→80人、薬剤師5人→4人、放射線技師6人→5人、事務職員11人→9人)の結果、給与費が122,393千円減少し、検査委託料等の経費の見直しで127,903千円の減少、減価償却費で8,786千円の減少となったためです。

(2) 一方、医業収益は入院収益が、24,564千円増加しておりますが、主な要因は内科医師の確保(3人→4人)により、前年度に比べ、内科延患者数が4,300人増加したためです。18年度診療を行っていた産婦人科は休診となりましたが、この減収分(68,068千円)を含めても増収になったということです。

また、外来も18年度に比べ、13,340千円の増収で、主な要因は、入院と同様内科医師の確保による患者数の増加です。

経営の課題

東金病院は、平成 15 年度以降、医業収益、費用とも減少傾向にあるが、給与比率、経費比率とも類似病院に比較して高く、若干の改善はあるものの、19 年度決算においても総収支約 4 億円の赤字が見込まれており、さらに、収入の確保と費用の削減を図り、経営健全化に取り組む必要がある。

1 収入の確保(医師確保)

収入の確保の前提となる患者の確保、その基礎となる医師の確保に努める。
また、未収金対策の強化を図る。

当院を取り巻く山武医療圏は、従来から県内でも医師数の少ない地域であり、新医師臨床研修制度導入の影響を受け、内科を中心として、大学医局からの医師派遣が困難となっている。

このため、新たに自前で医師を確保するため、以下の取組みを実施しているところである。

教育研修機能の整備強化による医師確保

具体的には

学会の教育施設認定取得

内科学会教育関連病院

内分泌学会教育病院

透析医学会教育関連施設

県立病院群レジデント制度の運用

2 費用等の見直し

医師の規模に合わせて病院の最適化、効率化、費用の見直しを図る。

病棟・病床規模の適正化

病院組織の適正化

各種費用の適正化

診療機能の特化と効率化

収支比率の設定

人件費率の設定

等に取り組む。

千葉県立佐原病院

平成15～19年度 決算

病院名:佐原病院

(単位:千円)

区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
		241床 決算	241床 決算	241床 決算	200床 決算	199床 決算見込
収益	医業収益 A	3,678,689	3,566,714	3,523,708	3,035,473	2,972,971
	入院収益	2,498,093	2,411,297	2,319,790	2,018,590	1,935,359
	外来収益	1,102,375	1,036,795	1,091,760	915,049	940,296
	その他医業収益	78,221	118,622	112,158	101,834	97,316
	医業外収益 B	1,044,083	890,820	568,285	603,717	574,091
	一般会計繰入金 Y	1,020,270	868,918	557,632	592,605	563,962
	その他医業外収益	23,813	21,902	10,653	11,112	10,129
	特別利益 C		1,898			
	収益計 (A+B+C)=D	4,722,772	4,459,432	4,091,993	3,639,190	3,547,062
	純収益計 (D-Y-C)=R	3,702,502	3,588,616	3,534,361	3,046,585	2,983,100
費用	医業費用 E	4,590,237	4,401,913	4,369,661	4,188,903	4,110,222
	給与費	2,505,332	2,372,257	2,326,024	2,210,892	2,242,522
	材料費	1,064,549	1,020,700	996,158	912,139	871,316
	経費	657,591	661,740	715,249	737,112	696,247
	減価償却費	355,207	336,559	327,440	323,129	296,971
	その他医業費用	7,558	10,657	4,790	5,631	3,166
	医業外費用 F	238,891	221,805	209,274	223,604	200,068
	支払利息	124,270	118,934	113,710	108,218	104,477
	その他医業外費用	114,621	102,871	95,564	115,386	95,591
	特別損失 G	0	68,020	2,717	0	0
費用計 (E+F+G)=H	4,829,128	4,691,738	4,581,652	4,412,507	4,310,290	
純費用計 (H-G-Z)=S	4,551,086	4,451,907	4,455,204	4,297,225	4,171,912	
医業収支 (A-E)=I	911,548	835,199	845,953	1,153,430	1,137,251	
經常収支 (A+B-E-F)=J	106,356	166,184	486,942	773,317	763,228	
總収支 (D-H)=K	106,356	232,306	489,659	773,317	763,228	
医業収支比率 (A/E)=Q	80.1%	81.0%	80.6%	72.5%	72.3%	
純医業収支 (R-S)=T	848,584	863,291	920,843	1,250,640	1,188,812	
純医業収支比率 (R/S)=U	81.4%	80.6%	79.3%	70.9%	71.5%	
繰入金対医業収支比率 (Y/A)	27.7%	24.4%	15.8%	19.5%	19.0%	
繰入金対經常収支比率 (Y/(A+B))	21.6%	19.5%	13.6%	16.3%	15.9%	
給与比率 ((-Z)/A)=V	60.5%	61.7%	62.5%	69.0%	70.8%	
材料比率 (/A)=W	28.9%	28.6%	28.3%	30.0%	29.3%	
経費比率 (/A)=X	17.9%	18.6%	20.3%	24.3%	23.4%	

退職給与金 Z	278,042	171,811	123,731	115,282	138,378
---------	---------	---------	---------	---------	---------

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。

純医業収支比率(U)は、一般会計繰入金や退職給与金など病院事業に直接関わらない又、年度間で変動が多く特殊要因となるや費用をそれぞれ総収益、総費用から除いた収支比率として、経営指標の一つとして考えているものです。

$$(算式) \quad \text{純医業収支比率} = \frac{(\text{総収益} - \text{一般会計繰入金} - \text{特別利益})}{(\text{総費用} - \text{退職給与金} - \text{特別損失})} \times 100$$

給与比率(V)は、給与費から年度間で変動が多く特殊要因となる退職給与金を控除した額を医業収益で除いたものです。

一般会計繰入金(Y)は、救急医療の確保に要する経費及び高度・特殊医療に要する経費など、その性質上経営に伴う収入をもつてることが適当でない経費や性質上能率的な経営を行っても収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費を一般会計が総務省の定める繰出基準を基本に負担するものです。

(根拠法令等:地方公営企業法第17条の2、地方公営企業繰出金について(総務省通知))

主要経営指標

佐原病院の決算(15年度～19年度)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	241床	241床	241床	200床	199床
新入院患者数(人)	4,095	3,903	3,560	2,828	2,819
延入院患者数(人)	71,661	73,736	70,428	62,204	60,846
新規外来患者数(人)	20,442	18,770	18,358	14,040	15,299
延外来患者数(人)	155,879	140,654	137,828	99,614	102,017
入院単価(円)	34,860	32,702	32,938	32,451	31,807
外来単価(円)	7,072	7,371	7,921	9,186	9,217
稼動病床利用率(%)	81.5%	83.8%	80.1%	77.3%	83.5%
平均在院日数(日)	17.2	17.9	18.4	19.8	18.9
手術件数(件)	1,056	843	861	781	819
職員数	236	233	232	230	227
医師	28	26	25	17	19
看護師	149	150	151	146	153
(看護師の平均年齢)	42.0	41.0	40.3	40.7	42.0
その他	59	57	56	67	55

・病床数は、平成19年1月から200床、4月から199床で運用

平成18年度 類似病院との決算の比較

病院名: 佐原病院

(単位:千円)

区 分		18年度	18年度	差引 (佐原 - 大綱)	18年度	差引 (佐原 - 小見川)
		200床 佐原病院	100床 国保大綱病院		170床 小見川総合病院	
収益	医業収益 A	3,035,473	1,559,169	1,476,304	2,507,912	527,561
	入院収益	2,018,590	960,618	1,057,972	1,539,323	479,267
	外来収益	915,049	497,953	417,096	788,764	126,285
	その他医業収益	101,834	100,598	1,236	179,825	77,991
	医業外収益 B	603,717	77,262	526,455	225,826	377,891
	一般会計繰入金 Y	592,605	62,380	530,225	185,155	407,450
	その他医業外収益	11,112	14,882	3,770	40,671	29,559
	特別利益 C			0	43,977	43,977
収益計 (A+B+C)=D		3,639,190	1,636,431	2,002,759	2,777,715	861,475
純収益計 (D-Y-C)=R		3,046,585	1,574,051	1,472,534	2,548,583	498,002
費用	医業費用 E	4,188,903	1,816,284	2,372,619	2,866,229	1,322,674
	給与費	2,210,892	839,506	1,371,386	1,611,709	599,183
	材料費	912,139	369,725	542,414	760,999	151,140
	経費	737,112	356,242	380,870	361,766	375,346
	減価償却費	323,129	120,416	202,713	125,344	197,785
	その他医業費用	5,631	130,395	124,764	6,411	780
	医業外費用 F	223,604	106,009	117,595	194,981	28,623
	支払利息	108,218	65,195	43,023	48,562	59,656
	その他医業外費用	115,386	40,814	74,572	146,419	31,033
	特別損失 G	0		0		0
費用計 (E+F+G)=H		4,412,507	1,922,293	2,490,214	3,061,210	1,351,297
純費用計 (H-G-Z)=S		4,297,225	1,922,293	2,374,932	3,061,210	1,236,015
医業収支 (A-E)=I		1,153,430	257,115	896,315	358,317	795,113
経常収支 (A+B-E-F)=J		773,317	285,862	487,455	327,472	445,845
総収支 (D-H)=K		773,317	285,862	487,455	283,495	489,822
医業収支比率 (A/E)=Q		72.5%	85.8%	-13.3%	87.5%	-15.0%
純医業収支 (R-S)=T		1,250,640	348,242	902,398	512,627	738,013
純医業収支比率 (R/S)=U		70.9%	81.9%	-11.0%	83.3%	-12.4%
繰入金対医業収支比率 (Y/A)		19.5%	4.0%	15.5%	7.4%	12.1%
繰入金対経常収支比率 (Y/(A+B))		16.3%	3.8%	12.5%	6.8%	9.5%
給与比率 ((-Z)/A)=V		69.0%	53.8%	15.2%	64.3%	4.7%
材料比率 (/A)=W		30.0%	23.7%	6.3%	30.3%	-0.3%
経費比率 (/A)=X		24.3%	22.8%	1.5%	14.4%	9.9%
退職給与金 Z		115,282		115,282		115,282

退職給与金Zは純医業費用、給与比率算出の際に控除されています。
類似病院の数値は、総務省の平成18年度地方公営企業年鑑の病院事業の個表から引用

主要経営指標

佐原病院と類似病院との決算比較(18年度)

	千葉県 佐原病院 200床	千葉県 国保大網病院 100床	千葉県 小見川総合病院 170床
新入院患者数(人)	2,828		
延入院患者数(人)	62,330	30,035	44,427
新規外来患者数(人)	14,191		
延外来患者数(人)	99,957	79,164	109,423
入院単価(円)	32,386	31,983	34,648
外来単価(円)	9,154	6,290	7,208
稼働病床利用率(%)	77.3		
平均在院日数(日)	19.8	19.4	16.5
手術件数(件)	781		
職員数(人)	230	97	204
医師	17	12	14
看護師	146	49	87
(看護師の平均年齢)	33	39	36
その他	67	36	103

経営評価

1 全体的評価

類似病院と思われる小見川総合病院・国保大網病院と比較すると当院の平成 18 年度医業収支比率は、小見川総合病院を 15 ポイント、大網病院を 13.3 ポイント下回っています。

この主な理由には、次のことが考えられます。

(1) 一床あたりの入院収益が低い。

これは、類似病院と比べ平均在院日数がほとんど変わらない中で、一床あたりの延入院患者数が低く、平成 15 年度の病床稼働率 81.5% に比べ約 10 ポイントも低下したことがその要因と考えられます。

(2) 医業費用のうち、給与比率・経費比率が高い。

これは、一床あたりの看護師数及び平均年齢が高く、一床当りの医業収益が少ないためであると考えられます。また、経費比率に含まれている委託費と報償費が相対的に赤字を拡大していると考えられます。

2 18年度決算までの評価と特殊要因等

(1) 過去 5 年間の医業収益が減少傾向の中、特に 18 年度は著しい減収であった。

これは、医師臨床研修制度をきっかけに 16 年度以降、年々、常勤医師数が減っており、特に平成 18 年度は、前年度 23 名体制から 18 名へと減少したことにより、内科 3 名減に加え小児科及び産科を休止にせざるを得ない状況になった影響で、医業収益・純収支比率が激減したものと考えられます。

[過去 5 年間の純収益計 前年度比較]

16 年度の対前年度比	113,886 千円
17 年度の対前年度比	54,255 千円
18 年度の対前年度比	487,776 千円
19 年度の対前年度比	63,485 千円

3 19年度決算の評価

(1) 19年度決算の総収支は、763,228千円であるが、前年度より10,089千円赤字が減少している。

この大きな要因としては、平成 19 年 4 月から再開した眼科の外来診察と手術による増収及び材料費等の経費を削減したためです。

(2) 材料費 40,823 千円の減少は、脳外科等の薬剤の使用量が減少したこと等によるものと考えられます。

(3) 給与費が 31,630 千円増加した理由は、医師 1 名の増員と退職給与金が前年度より 23,096 千円増加しています。

経営の課題

1 適切な人員配置に沿った院内体制の確立

小児科、産科等の常勤医が不在であることから入院患者の受け入れ増加が困難な状況の中、年々増加する給与比率を改善する必要があるが、限られた人員配置で人件費に見合った医業収益を確保するためには、

看護基準7:1の取得

院外処方完全実施による薬剤師の病棟管理薬剤師への業務転換

医師の負担軽減を図るため医師事務補助作業者の配置

平成20年6月に実施した病棟の再編成による医療の質の向上

他医療機関や施設等との地域医療連携機能の強化

等の充実が当面の課題となっています。

今後は、DPC準備病院からDPC認定病院に向けた体制づくりを行い、地域医療の中核病院として良質な医療の提供、患者が安心してかかれる病院づくり、地域の医療機関を支援するため院内の体制を目指します。

2 予算執行管理の改善

現在の施設・人員から収益の増収は厳しい状況にある当病院では、医業比率に直結する材料費、委託費等の経費の執行管理と経費節約が重要となっています。

このためには、

在庫管理の徹底、無駄の排除

委託費、報償費等の固定費用の削減

光熱水費、燃料など最も効率的なシステムの検討

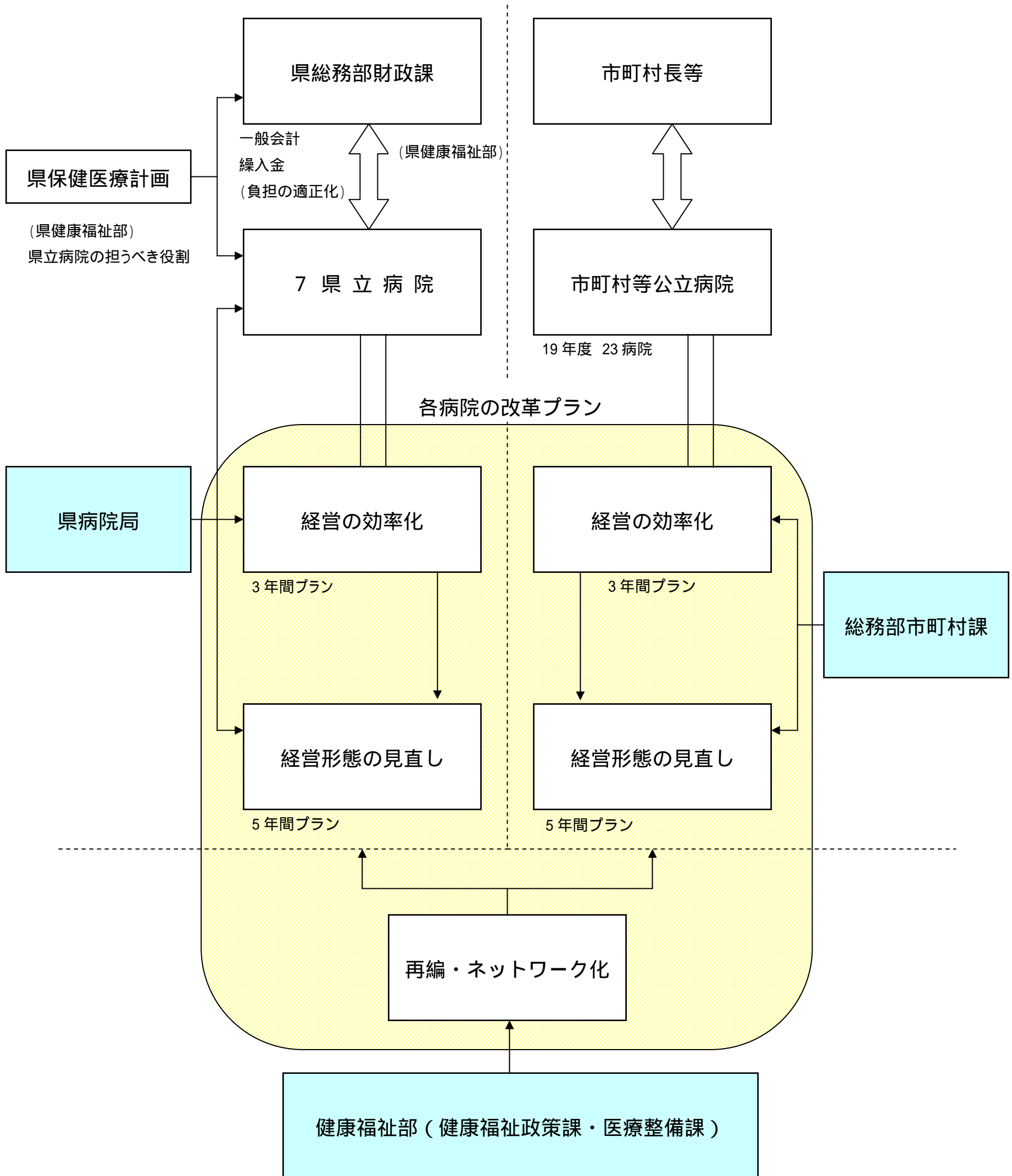
等、全職員の削減意識の高揚に努める必要があります。

3 施設老朽化への対応

本館建物・本館設備の老朽化が進み医療サービスの質の低下を招いていることから、耐震補強対策を始め、手術室の安全性・機能性に関する検討や、医療サービス低下防止対策の検討が課題となっています。

公立病院改革ガイドラインに関する対応

< 健康福祉部、総務部市町村課、病院局で調整・協力 >



健康づくり・医療・福祉の連動を目指して

3 計画の共通ポイント

- 生涯を通じた連続的健康づくり・医療・福祉
- 一人ひとりの状況に応じた健康づくり・医療・福祉
- 循環型地域医療連携システムの構築と健康づくり・福祉との連動
- 生活圏レベルにおける健康づくり資源・医療資源と福祉資源その他資源の連動
- 健康づくり・医療・福祉の担い手の育成とネットワーク化

健康ちば 2 1 (健康増進計画)

健康増進法に基づく千葉県の健康増進計画として、総合的な健康づくりを展開していくための計画

平成13年度策定 中間見直し H20.3
<平成13～22年度> <平成20～24年度>

ポイント

- 一人ひとりに応じた健康づくりの支援
- 施策の方向性
 - 生涯を通じた健康づくり
 - 一人ひとりに応じた健康づくり
 - 使い勝手のいい多様なメニュー
 - 連携による健康力アップ (食の環境づくりの推進等)
 - みんなで担う健康な街づくり
- 千葉県独自の目標項目、数値目標の設定

千葉県保健医療計画

医療法に基づく法定計画として、本県における医療提供体制の確保を図るための計画

平成18年6月改定 見直し H20.4
<平成18～22年度> <同左>

ポイント

- 「がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病」の4疾病、「救急医療、災害時における医療、周産期医療、小児医療」の4事業の循環型地域医療連携システムの構築
- 保健医療圏の見直し
- 基盤・過程・結果を用いた評価、多面的な観点による、目標値の設定
- 総合診療機能の充実・強化
- 県立病院が担うべき政策医療等

千葉県地域福祉支援計画

社会福祉法に基づく法定計画で、県における地域福祉推進の基本方針であるとともに、市町村支援のガイドラインであり、福祉の総合計画と位置付けられている。

平成16年3月改定 見直し H20.4
<平成16～20年度> <平成16～21年度>

ポイント

- 地域福祉の担い手の大同団結
- 市町村との連携・協働の強化
- 福祉以外の様々な分野との融合を地域社会において実現
- 制度改正等との整合を図るとともに制度と制度外サービスが補完しあう地域社会の実現

千葉県地域ケア整備構想

平成20年3月策定

- 千葉県の高齢者を取りまく現状
急速な高齢化、要介護高齢者の増加
全国に比べて少ない介護施設等
地域ケアを支える医療サービスの不足
- 基本的方向
誰もが安心して地域で暮らせる多様な
「生活の場」の整備 他8項目
- 療養病床の再編成

療養病床の再編成

【平成19年4月】

医療療養病床	7,246床
(うち回復期リハビリ)	(312床)
介護療養型医療施設	2,881床
療養病床合計	10,127床

再編成

【平成24年度】

医療療養病床	7,940床
(うち回復期リハビリ)	(734床)
介護老人保健施設	1,579床
グループホーム	18床
一般病床	506床
病床の廃止	84床
合計	10,127床

本県の地域特性を踏まえて、再編成

- 平成27年までの後期高齢者人口の伸びを勘案 (国基準は平成24年度まで)
- 入院患者の医療区分は、直近の平成19年調査結果を使用 (国基準は平成18年調査結果)
- 医療機関の転換意向を尊重 (本年1月1日現在で独自に意向調査を実施)

平成23年度末で廃止される介護療養型医療施設に入院する患者が困らないよう、各種サービスを確保

など

医療費適正化計画
(策定中)